

沼田中学校

所在地 〒378-0053 沼田市東原新町1801番地1

電話番号 0278-23-1116 FAX 22-9856

校長名 富田 孝

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) 学校教育目標 【美しい心 高い知性 強い身体を磨く生徒】

(2) 経営目標

(目指す学校像)【子どもが輝く学校】

- ・子どもが「通いたい」と思う学校
- ・保護者が「学ばせたい」と思う学校
- ・地域の方が「応援したい」と思う学校

(目指す教師像)【子どもを輝かせる教師】

- ・社会人としての優れた識見を有する教師
- ・幅広い視野をもち学び続ける教師
- ・豊かな人間性とコミュニケーション能力を有する教師

(3) 本年度の重点目標 『樂喜』

生徒が、学習や練習の過程、行事に向けた学級での活動で「樂」しさを感じ、学習の成果、学級のまとまりに「喜」びを味わう教育活動の推進。

2 経営方針

- (1) 質の高い教育活動の推進に向けた組織的な校務運営と教職員の資質向上
- (2) 自他を大切にし、思いやりと規範意識をもった「豊かな心」の育成
- (3) 培う資質・能力の明確化と主体的・対話的で深い学びによる「確かな学力」の育成
- (4) 生涯にわたって運動に親しむ基盤となる「健やかな体」の育成
- (5) 安全で安心な居場所づくりと、潤いのある学習環境の整備
- (6) 地域の次代を担う人材の育成を視野に入れた地域と学校の連携・協働

3 本年度の重点施策

(1) 【沼田市・先生の日】

- ・主任等の指導助言、連絡調整機能の充実と、教職員全員での共通理解・共通実践
- ・参観ウィークや人事評価制度の活用による、職員個々の職能成長
- ・特別な配慮を必要とする生徒への意図的・組織的・計画的な指導の工夫
- ・業務改善の推進及び部活動運営方針に基づく活動の実施による、働き方改革の推進

(2) 【命を守り育てる指導】【SNSルール】

- ・過年度の成果を踏まえた、道徳の授業改善と道徳教育の充実
- ・自ら考え行動する取組への支援と取組の価値付けによる、自己有用感・自己肯定感の醸成
- ・「凡事徹底」「脚下照顧」「知行合一」の励行と自己をみつめ生き方を考える意識の向上
- ・「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を視点とした特別活動の充実
- ・「沼田中学校SNS利用ルール」「SOSの出し方に関する教育」などによる、自他を尊重し、命を守り育てる教育の充実

(3) 【振り返り学習】

- ・指導と評価の一体化による、生徒の実態を踏まえた指導の工夫
- ・ねらいの明確化とねらいの達成につながる学習活動(ICT機器の活用等)の工夫
- ・ペアや小集団等、学習形態の工夫により、見方や考え方を深めたり、広げたりする授業実践

(4) 【教育部活】

- ・「体力向上プラン」を活用した、学校課題の解決に向けた取組の充実
- ・主体的に自己の体力向上や技能習得に取り組むための、保健体育の授業や体育的行事の工夫
- ・「沼田中学校部活動運営方針」に基づく教育部活動の推進
- ・健康的な生活の実践に繋がる、専門委員会活動、学校保健委員会等の実施

(5) 【セーフティ沼田】【小中連携・一貫教育】

- ・生徒の危険予測回避能力の育成と職員の安全管理の徹底
- ・熱中症、感染症、食物アレルギー等に対する理解と全校体制による指導や対応の強化
- ・校舎への愛着をもてるよう、温かみのある教室環境や花と緑のある校内環境の整備
- ・合同引き渡し訓練(地震想定)や不審者対応訓練の実施による、実践的な安全教育の推進

(6) 【沼田大好き！ふるさと学習】

- ・学校支援センターを活用した教育の質の向上
- ・様々な分野における地域のエキスパートや外部機関等の専門家を活用した授業の充実
- ・「沼田大好き！ふるさと学習」の充実による郷土を愛する心の醸成
- ・コミュニティースクールの立ち上げに向けた研修や組織体制づくりの推進

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 身に付けた資質・能力を生かして、自己の考えを表現できる生徒の育成
副主題 ～授業のねらいに迫るICT機器の効果的な活用を通して～

生徒の実態との関わり

・NRTの結果から「思考・判断・表現」に課題がある。
・全国学力・学習調査の生徒質問用紙では「自分の考えを発表する機会では、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」の質問に対して「当てはまる」と回答した割合が全国・県を下回っていた。

指導の在り方との関わり

・これまでの道徳科の研修成果であるICT機器を活用した「意見の共有・焦点化」を他教科に広げる。
・各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を多く取り入れ、生徒の主体的・対話的で深い学びが行われるように授業改善を行う必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

「各教科等で学んだことを生かして、多面的・多角的な視点から自分の考えを再構築し、根拠や理由を示して、相手に分かりやすく表現できる生徒」と捉え、この生徒像に迫るために、各教科においてICT機器を効果的に活用したねらいに迫る授業実践を通して、その実現を目指す。

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・各教科等で「自己の考えを表現」するために必要な資質・能力を明確にする。
- ・各教科等でICT機器の共通実践の活用場面を「意見の共有・焦点化」に絞り、生徒の実態を基に、授業のねらいに迫れるように授業を構想し、実践を積み重ねる。
- ・授業のねらいに迫るICT機器活用の視点から授業改善を行い、授業研究部会の中で実践の成果と課題を具体的な生徒の姿で話し合い、有効な手立てを全体で共有することで、授業の質的向上を図る。
- ・「参観ウィーク」を計画的に実施し、教師同士の学び合いを行い高め合っていく。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・ICT機器を活用する際、個の考えをしっかりとらせ、グループや全体で意見を交流させたことで、多面的・多角的な視点から生徒の思考を高めることに繋がった。
- ・ICT機器を「意見の共有・焦点化」の活用場面に絞り、生徒の学びを助け授業のねらいに迫るためのツールとして活用する実践を積み重ねてきたことで、各教科等でICT機器の有効な手立てを蓄積することができた。

○課題

- ・「自己の考えを表現」しようとしているが、そのために必要な資質・能力が十分身に付いておらず、理由や根拠を示して表現することができない生徒が多い。
- ・自己の考えをタブレット上では入力できていても、グループや全体で話し合う場面で、発言が少なく、消極的な話し合いになってしまう。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・授業者は、単元全体や一単位時間の授業での「自己の考えを表現」するために必要な資質・能力を明確にし、ICT機器の有効な手立てを全体で共有する。さらに、自己の考えを表現する機会や場면을意図的に設定し、実践を積み重ねていく。

3 研修計画・経過報告

月 日	研修計画[内容]	経過報告[○研修の視点 ・ I C T活用]
4 / 10(月) 全体会①	本年度の研修計画の検討	○研修主題、研修内容の検討 ○各教科努力点等の検討
5 / 29(月) 全体会②	研修内容の共通理解	○研修内容・方法等の検討 ○授業計画の立案
6 / 5(月) 全体会③	研修内容・方法等の共通理解	○目標を具現化した生徒像の検討 ○一人一授業指導案形式の検討
6 / 8(木)	指導主事訪問 A	○個別の授業改善の視点の検証
6 / 26(月) 全体会④	研修の方向性の確認	○A訪問後の研修の方法の確認・修正
7 / 6(月) 授業・研究会	2年技術 瀧澤教諭 「これからの発電方法」	○思考を深める学習、協働での意見整理 ・疑似体験、スプレッドシート(グラフ)
7 / 10(月) 全体会⑤	授業研究会の進め方	○授業研究会の方法の検討 ○各教科の実践の見直し
8 / 25(金) 全体会⑥	生徒支援 (オンデマンド研修) 子どもの発達科学研究所	「子どもの行動を考える (特別支援教育 基礎) ~行動に着目することの大切さ~」
8 / 28(月) 全体会⑦	2学期の計画の確認	○授業計画の確認 ○教科部会ごとの授業構想
9 / 22(金) 授業・研究会	2年数学 生方教諭 「2次方程式の利用」	○発表や話し合い ・図形の操作、ヒント動画
9 / 25(月) 全体会⑧	指導主事訪問 B の指導案検討会	○指導案に基づく授業改善策の検討
10 / 19(木) 授業・研究会	2年数学 鈴木英教諭 「一次方程式」	○教員による教材の提示、発表や話し合い ・タブレットに書き込みながら説明
10 / 23(月) 全体会⑨	生徒支援 講師 「anomira」代表 北爪浩美 先生	「通常学級における発達障害のある生徒への指導について」
10 / 24(火) 授業・研究会	2年国語 櫻井教諭 「リライトの交流会」	○発表や話し合い ・活動手順の提示、リライト作品の共有
10 / 27(金) 授業・研究会	指導主事 B'訪問 1年数学 遠山教諭 「比例と反比例」	○教員による教材の提示、発表や話し合い ・個人でかいたグラフをロイロノートに提出させ、形に着目して比較させたことで、正確に書く必要性に気付かせ、本時の見通しをもたせることができた。 ・ X 軸と Y 軸の関係について、グループで検討した理由をロイロノートに提出させ、全体で根拠をまとめたことで、理解を深めることができた。 ・ 思考の流れにそって ICT の活用があり、本時の内容を自分の言葉でまとめることができた。
10 / 31(火) 授業・研究会	2年英語 須藤教諭 「PROGRAM 5」	○思考を深める学習 ・紹介文の加除修正、振り返り(スプレッドシート)
	3年理科 鈴木元教諭 「物体の運動」	○個に応じる学習 ・個で選べる2つのシート、共有ノート
	1年国語 荒木教諭 「少年の日の思い出」	○発表や話し合い ・リライト文の作成と交流、解釈の比較検討
11 / 2(木) 授業・研究会	3年英語 深井教諭 「PROGRAM 5」	○協働での意見整理 ・ALT の動画(倍速変える)、英作文の共有
11 / 6(月) 全体会⑩	指藤谷教諭 B 訪問 (全体会) B 訪問授業準備・確認	○模擬授業による授業改善策の検討 ○ I C T 機器活用の検討
11 / 8(水) 授業・研究会	2年音楽 清水教諭 「オペラに親しむ」	○協働での意見整理 ・クラゲチャート、紹介文交流、動画再生



11/14(火) 授業・研究会	1年理科 林教諭 「光の世界」	○教員による教材の提示、発表や話し合い ・既習事項の提示、共有ノートでの作図
11/17(金) 授業・研究会	1年保健体育 田村教諭 「ネット球技 バドミントン」	○協働での意見整理 ・作戦ボード、ゲーム撮影
11/22(水)	指導主事訪問B訪問 3年社会 藤谷教諭 「地方自治と私たち」	○思考を深める学習、協働での意見整理 ・ダイヤモンドランキングやレーダーチャートを活用して、自分の意見をもたせたり、4つの視点をもとに検討させたりしたことは、生徒の思考を高めることに有効であった。 ・視覚的に分かりやすいICT機器が子どもの学びを助けるアイテムとして有効活用できていた。 ・1位にしたシートの色を変えて、全体共有したことで、変容が分かりやすく、その理由を個人で考えさせたことで、「当事者として考える」ことに繋がった。 ・振り返りシートが単元全体を見通すことができ、これまでの学びの積み上げを生徒が実感することができるものであった。 ▼グループ活動では、話し合いを活性化させるためのルール作りが必要であった。
11/29(水) 授業・研究会	2年理科 吉川教諭 「天気とその変化」	○協働での意見整理 ・写真資料の提示、天気図とアメダスの比較
12/4(月) 全体会⑩	B訪問後の成果と課題の確認	○一人一授業の成果と課題 ○本校生徒の実態と課題について共通理解
12/6(水) 授業・研究会	1年英語 飯野教諭 「PROGRAM 8」	○発表や話し合い ・スキットの共有、フィッシュボーン
12/12(火) 授業・研究会	1年社会 下田教諭 「世界の諸地域(ヨーロッパ)」	○協働での意見整理 ・ワークシートの全体共有
12/13(水) 授業・研究会	1年美術 福島教諭 「私だけの文様」	○協働での意見整理 ・画像複製、鑑賞の視点共有、振り返りシート
12/18(月) 授業・研究会	2年家庭 阿部教諭 「住空間の整え方を工夫しよう」	○協働での意見整理 ・課題提示、鳥瞰図や写真、Xチャート
12/20(水) 授業・研究会	2年保健体育 篠崎教諭 「喫煙の害と健康」	○協働での意見整理、調査活動 ・ウェビングマップ、Xチャート
12/21(木) 授業・研究会	2年社会 田邊教諭 「日本の諸地域(関東地方)」	○思考を深める学習、発表や話し合い ・活動の提示、思考ツール(特性要因図)
1/9(火) 全体会⑫	実践のまとめ 校内研修アンケート実施	○研修の成果、課題の把握 ○ICT機器活用の有効な手立ての確認
2/5(月) 全体会⑬	研修の評価と反省 次年度構想	○研修のまとめと次年度の研究内容の検討

＜職員一覧＞

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	富田 孝	教諭	須藤 陽介	教諭	田村 健介	スクールカウンセラー	阿左見康成
教頭	上原 昌弘	〃	生方裕一郎	〃	清水 健伯	スクールソーシャルワーカー	板坂まち子
教諭	吉川 陽子	〃	林 拓磨	〃	遠山 莉菜	心の教室相談員	下田 高男
〃	篠崎 真理	〃	荒木 崇史	〃	岡田 秀久	学校教育支援員	小林紀美枝
〃	飯野 智	〃	鈴木 元気	〃	阿部 澄子	〃	萩原ちづる
〃	大竹 訓子	〃	鈴木 英樹	〃	下田 貴也	〃	松井 彩
〃	福島 栄典	〃	藤谷 直道	養護〃	真船由美子	主任用務員	原田 徳樹
〃	瀧澤 裕志	〃	深井 優介	統括補佐事務長	森下 直樹		
〃	田邊 真司	〃	櫻井 陽希	事務主事	金子 真紀		

沼田南中学校

所在地 〒378-0015 沼田市戸鹿野町726番地
電話番号 0278-23-5557 FAX 22-9857
校長名 根岸 浩文

I 学校の経営

1 学校の教育目標

- 〈基本目標〉 人間尊重の精神を基盤に、地域や国際社会に生きる自覚を高め、心豊かで逞しく活力ある生徒を育成する。
- 〈具体目標〉 「英知」・・・知性を磨き、創意を生かして考える生徒
「礼節」・・・秩序を守り、感謝と思いやりをもつ生徒
「強健」・・・心身を鍛え、明るく活動する逞しい生徒
- 〈経営目標〉 自己有用感を高める教育活動の推進・充実

2 経営方針

- (1) 確かな学力の育成を目指す指導の改善と充実
- (2) 豊かな心と自主性・主体性を育てる指導の充実
- (3) 心身の健康の増進と体力の向上
- (4) 生徒指導・特別支援教育の充実
- (5) 家庭や地域、小学校との連携、キャリア教育・進路指導の充実
- (6) 持続可能な運営体制の構築及び多忙化解消に向けた勤務環境の改善

3 本年度の重点施策

- (1) 確かな学力の育成を目指す指導の改善と充実【サマースクール沼田】【家族で本を読みましょう】
 - ・学習指導要領に基づく確実な教育課程の編成、実施、評価、改善
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進及びカリキュラムマネジメントの充実
 - ・育成すべき資質・能力を明確にした内容や時間のまとまりを見通した単元や題材の構想
 - ・単位時間における「めあて」「見通し」「学び合い」「振り返り」「評価項目」を意識した各教科の「見方・考え方」を働かせる学習活動の充実
 - ・丁寧な教材研究や互いの授業を見合う授業研究等による教師力の向上
 - ・授業と放課後学習・自主学習と関連付けた学びのサイクルの充実
 - ・各教科等の目標に迫る1人1台端末等のICT環境を効果的に活用した学習指導の工夫
 - ・長期休業を利用した補充学習の実施
 - ・読書活動の充実とそれを支える図書室の環境整備及び家庭での読書推奨
- (2) 豊かな心と自主性・主体性を育てる指導の充実【児童生徒の命を守り育てる教育、教育部活】
 - ・道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実及び全教育活動を通じた豊かな心と実践力の育成
 - ・「考え・議論する」道徳科への質的転換に向けた指導の工夫
 - ・挨拶・返事・礼儀等の基本的な生活習慣の充実
 - ・生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実（「SOSの出し方に関する教育」プログラムの活用）
 - ・目標に向かって自主的・主体的に粘り強く取り組む生徒を育成するための教育部活動の充実
- (3) 心身の健康の増進と体力の向上【セーフティ沼田】
 - ・学校保健委員会を中心とした心の健康、食育の推進及び感染症対策の徹底
 - ・体力向上プランを踏まえた教科体育を核とした運動やスポーツに対する関心や意欲の向上
 - ・生徒の危険予測・危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進
- (4) 生徒指導態勢・特別支援教育の充実【沼田市SNSルール】
 - ・生徒指導・教育相談委員会を核にした迅速な情報共有による組織的・計画的な生徒指導態勢の推進
 - ・「よさを認め、励ます」場面を意図的に設定することによる「自己有用感」「自己肯定感」の高揚
 - ・いじめ事案に対する法に基づく適切な対応及び不登校支援も含めた未然防止、組織的・計画的な対応の充実
 - ・SNSルールの活用を中心とした情報モラル教育の充実と家庭への啓発活動の推進
 - ・「個別の教育支援計画・指導計画」を基にした「合理的配慮」を意識した教科指導の推進
- (5) 家庭や地域、小学校との連携、キャリア教育の充実【沼田大好き！ふるさと学習】【小中連携】
 - ・学校・学年・学級だよりやホームページ、H&Sによる情報提供の充実
 - ・家庭と連携した挨拶、早寝早起き、家庭学習等の生活・学習習慣の確立
 - ・地域の理解や地域素材を活用した「沼田大好き」ふるさと学習の推進
 - ・学校と家庭、地域が連携・協働した教育活動における地域の人的・物的資源の積極的活用
 - ・小中連携による各教科等の学びの連続性を意識した教育課程編成の推進
 - ・キャリアパスポートを活用した自分の生き方を見つめ、夢や希望を育むキャリア教育の推進
- (6) 持続可能な運営体制の構築及び多忙化解消に向けた勤務環境の改善
 - ・信頼される学校づくりのための教職員の資質向上と服務規律の確保
 - ・報告・連絡・相談のしやすい風通しのよい職場作りの推進と教職員間の協力体制の強化
 - ・勤務時間の適正な記録の徹底と廃止・縮小・ICT化の視点での業務改善の推進
 - ・適正な部活動の運営及び休日の部活動の段階的な地域移行の推進に向けた検討

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 進んで伝え合い考えを深められる生徒の育成

副主題 ～ICTの効果的な活用と学び合いの場の工夫を通して

生徒の実態との関わり

- ・これまでの実践では、生徒は積極的に話し合う活動に取り組み、授業のねらいにせまるように考えを深められる姿が見られた。
- ・自分の考えを発表するだけの意見交流になっていることがあるため、お互いの考えを理解し合えるような話し合い活動をしていく必要がある。

指導の在り方との関わり

- ・教科の「見方・考え方」を明確にして授業展開を考えることで、生徒も学び合いの中で考えを深めることができていた。
- ・学び合いの場でじっくりと考えを深めていけることができるように、活動の仕方や発問を工夫したり、ICTを効果的に活用したりすることが必要である。

2 研修内容・方法

(1) 具現化した目指す生徒像

ICTを効果的に活用したり、学び合いの場において、進んで考えを伝え合ったりすることで、自らの考えを見直し、深めていくことができる生徒

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・1, 2学期中に、授業公開を一人1回行い、参観を行った教師の感想から授業の成果と課題をまとめる。その際、多くの教員が参観できるよう、授業を録画し、いつでも見られるようにする。
- ・校内研修の中で、「各教科等授業改善プロジェクト」の授業づくりで県・市の指導主事から得た内容を、実際に体験するなどしながら全体で共有していく。
- ・校内研修の中で、先進校の取り組みを紹介し、授業改善に取り入れていく。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・ICTを使うことで、考えを深める学び合いの時間を十分確保することができた。また、ICTで意見の比較などを行うことで、より自分の考えを見直せるようになった。
- ・課題の提示や、意見の共有などで効果的にICTを活用する方法を実践することができた。
- ・参観授業については録画をすることで、空き時間が合わなくても授業を見ることができた。

○課題

- ・個に応じた支援策としてのICTの活用方法を実践する例が少なかった。
- ・より効果的なICTの活用方法を研修していく必要がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・これまでの学習をいつでも振り返ることができたり、個別にヒントカードを送れたりするような活用方法を工夫していく。また、他校の活用例などを取り入れるなど、情報収集を行いながら、それぞれの教科の特性に合わせた活用例を工夫していく。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4. 7 (推進委員会)	・昨年度までの研修経過の確認 ・研修主題、課題、内容、計画の決定	○前年度の反省・課題を確認する ・生徒の考えを深めることができるような学び合いの工夫をするために、ICTを効果的に活用する。
4. 10 5. 22 6. 5 6. 19	・研修主題、課題、内容、計画の共通理解 ・指導主事訪問Aに向けて ・授業公開の計画 ・授業改善プロジェクトの研修	○指導案の様式等の確認をする ・生徒の考えを深めることができるよう、授業ではたらかせたい、教科の「見方・考え方」を明確にする。授業を参観する際にも「見方・考え方」を中心に生徒の活動を見取っていく。
6. 28	・指導主事訪問A	○研修の方向性について再確認する ・授業のねらいを明確にしつつ、ICTを取り入れていく。 ・主体的に学び合いができるよう授業のめあてをつかませる。
7. 18	・NRT分析 ・参観授業の実践に向けて ・指導主事訪問Aの反省	○生徒の実態を把握し、今後の研修について見直す ・全国平均をほぼ上回っているので、さらに力をのばせるよう、主体的に学び合いを行う工夫をしていく。
6~11月 随時	・参観授業の実践 授 ・全体会での内容の共有	○学び合いの工夫とICTの効果的な活用について ・学び合う必要性のある課題を工夫し、グループでの話し合いや考えの共有をしながら問題解決をしたことは有効であった。 ・意図的な指名で振り返りを発表させ、友達からの学び合いにより新たな発見ができ、学習の良さを改めて実感させることができる。 ・ロイロノートを使うことで思考を可視化することができ、その後の学び合いにつなげることができた。 ・ロイロノートを使って考えを共有させることで、学び合いの中で考えを比較させて深めることができた。 ・授業の導入でデジタル教科書などの資料や動画を使うことで、課題をつかみやすくなり、効果的に授業を進めることができた。
9. 12 10. 2 10. 10 10. 23	・指導案検討会 指 ・模擬授業の確認	○学び合いの工夫とICTの効果的な活用について ・考えを深められる学び合いができるような課題を設定し、生徒が主体的に活動できるようにする。 ・はばブラⅡの「問題解決的な学習を充実させるICT機能」を利用しながら、効果的な活用方法を取り入れる。
11. 7 11. 13	・授業改善プロジェクト 授 ・授業改善プロジェクトの振り返り	○実験の考察で多面的な見方を使って考えを深められたか ・ロイロノートで結果を瞬時に共有していたので、他の班の結果と比較して結果の再現性を確認できていた。 ・再実験をする際に、生徒が予想を出し合うことができ、多面的に考えることができていた。
11. 16 12. 11	・教育水準向上研究会 授 ・教育水準向上研究会の振り返り	○ICTの効果的な活用と学び合いの場の工夫について ・写真等のデータなどを、ICTを使ってスムーズに送付できるよさを利用して、ヒントや手掛かりを提示していたことが有効であった。 ・叙述に即した動画やシンキングツール、共有ノートを活用した話し合いなどで、ICTを使ったことは生徒の考えを深める手立てとして有効であった。

		<ul style="list-style-type: none"> ・個別の学習から協働的な学び、そして個へ立ち返るという学びのサイクルが確立された授業であり、考えを深める手立てとして有効であった。 ・学習の場の設定が良かった。友達の考えを具現化する活動だったため、グループで活発に話し合い、様々な視点で考えることができた。
1.22	・研修のまとめ (研究紀要についての確認)	○今年度の成果と課題 ・今年度の成果と課題、次年度の研修内容に関するアンケート
2.19 3.18	・紀要「潯標」完成、次年度の計画 ・次年度の確認	○次年度の方向性について ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を目指す。 ・今後もICTの効果的な活用方法を研修していく。

※資質向上研修

月日	区 分	講 師	内 容
9.25	・学校侵入者 対応訓練	スクールサポーター 茂木 哲由	・侵入者が来たことによる避難の仕方や、避難方法の放送での指示の確認を行った。
11.27	・救急救命法 講習	利根沼田消防本 部	・心肺蘇生法を学び、AEDを正しく使えるようにする。
11.27	・エピペン講 習会	養護教諭	・アレルギー対応について学び、緊急時のエピペンの使い方を確認する。
12.14	・SSWとの 連携	SSW	・SSWの役割について、過去の具体例を紹介してもらいながら今後の対応に生かす。
5.22 6.5 9.12 10.5 12.7 12.22 1.22	・服務規律研 修	教頭	<ul style="list-style-type: none"> ・服務規律チェックリストを使いながら、自分の行動を見直したり、職員全体の傾向を把握したりした。また、新聞記事に掲載された実例なども共有した。 ・生徒や同僚等への不適切な行為やハラスメントの未然防止について共通理解を図った。 ・交通事故防止に向けて注意喚起するとともに、事故が起こった場合の対応について共通理解を図った。

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	根 岸 浩 文	教 諭	小 林 千 晴
教 頭	根 岸 敦 子	〃	萩 原 彩 水
教 諭	吉 川 洋 之	〃 (置籍)	平 井 美 千 代
〃	内 田 淳	養 護 教 諭	富 澤 彩 香
〃	林 洋 子	〃 (育休補)	中 島 純 子
〃	男 沢 紗 代	事 務 主 任	片 野 恵
〃	松 井 恒 俊	教 諭 (学校間連携)	瀧 澤 裕 志
〃	治 田 千 晶	支 援 員	林 佐 一 郎
〃	藤 倉 寛 明	〃	林 祥 子
〃	小 嶋 博 子	用 務 員	工 藤 信 悦
〃	綿 貫 諒 太	心 の 相 談 員	星 野 浩 司
〃	小 林 美 緒 奈	〃	有 坂 由 紀 子
〃	角 田 人 基	ス ー ク ル カ ウ ン セ ラ ー	小 林 一 郎
〃	大 関 孝 行	ス ー ク ル ソ ー シ ャ ル ワ ー カ ー	松 岡 一 明
〃	藤 井 輝 美	部 活 動 指 導 員	中 島 務

沼田西中学校

所在地 〒378-0031 沼田市薄根町3580番地
電話番号 0278-22-3055 FAX 0278-22-9858
校長名 中島 潔

I 学校の経営

1 学校の教育目標

【学校教育目標】「高い知性、温かい心、たくましい体をもつ生徒の育成」
《目指す生徒像》○向学…自ら学ぶ生徒 ○礼節…思いやりのある生徒 ○進取…挑戦する生徒
《目指す学校像》…生徒が心から「通いたい」と思える開かれた学校
《目指す教師像》…熱意、誠意、愛情のあふれる教師

2 経営方針

- 各主任等のリーダーシップによる機能の充実と明確な役割分担を通じた組織的対応の推進（情報共有、報告・連絡・相談の徹底）
- 人事評価制度等を活用して教職員の職能成長を図り、一人一人のよさを生かした学校経営の充実
- 学校課題を分析し明確化することにより、解決に向けた実効力のある取組の推進
- 安全、安心な教育活動を基盤とする、授業改善の日常化、積極的生徒指導の充実による信頼される学校づくりの推進
- 校務の効率化による多忙化の軽減と風通しのよい職場づくりの推進

3 本年度の重点施策

【本年度の重点目標】「主体性と支え合いの向上 ～やる気・勇気・根気のワンポイントアップ～」
・やる気のワンポイントアップ＝授業中の発言を1回増やす、家庭学習でいつもより1問多く解く 等
・勇気のワンポイントアップ＝正しく判断して1人でも多くの人の手助けをする 等
・根気のワンポイントアップ＝諦めずに1つでも多くの努力・練習をして体力を伸ばす 等

(1) 「高い知性」の育成（やる気） 【振り返り学習】 【沼田市・先生の日】

～やる気（先の見通しを立て自ら取り組む意欲）を伸ばすために～

- ①単元の目標や一単位時間のねらいの明確化による学習の見通しと、ねらいに沿った振り返り学習を取り入れた主体的な学習活動の推進
- ②自己の考えを広げ深める対話的学びに繋がる課題や発問の工夫と1人1台端末の活用促進
- ③小学校からのつながりを考慮し、各教科担当や家庭と連携し「授業→放課後の補充学習→家庭学習」という学びのサイクルを通じた自律した学習者の育成
- ④家庭学習充実のための工夫・改善と、授業と関連させた課題提示の工夫
- ⑤個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた特配を活用したきめ細かな指導の充実
- ⑥生徒一人一人の実態把握に基づく、個に応じた支援体制の確立（特別支援教育の推進）
- ⑦長期休業日等を活用した苦手克服のための補充学習の工夫

(2) 「温かい心」の育成（勇気） 【沼田大好き！ふるさと学習】

～勇気（正しい判断と思いやりの心）を伸ばすために～

- ①豊かな心を基盤とした、自己決定したり協力し合ったりする場面を意図的に設定した教育活動の推進
- ②「自分事として捉え多面的・多角的に考え議論する」特別の教科道徳の授業改善と朝読書の充実や学校図書館の活用による思いやりの心や豊かな感性などの醸成
- ③ボランティアや職場体験、また地域人材との交流活動等を通じた地域理解の深化と郷土への愛着の増進
- ④生徒主体のいじめ防止活動の改善・充実
- ⑤SCやSSWと連携した教育相談体制の整備と心の教育の推進

(3) 「たくましい体」の育成（根気） 【教育部活】 【生徒の命を守り、育てる教育】

～根気（目標達成に向け諦めずに取り組む粘り強さ）を伸ばすために～

- ①「体力向上プラン」を活用した体育を中心とした全校体制で持久力の向上等の学校課題の解決の促進
- ②「心・技・体」の調和、生徒の主体的な取組や礼儀等の人間的成長を重視した教育部活の実践
- ③保健の授業や特別活動を中心とした全教育活動を通して命を大切にする態度と健康で健全な心身の育成
- ④生徒会専門委員会や学校保健委員会を活用した生活習慣と健康管理の推進
- ⑤感染症予防対策の継続と徹底による健康維持の充実

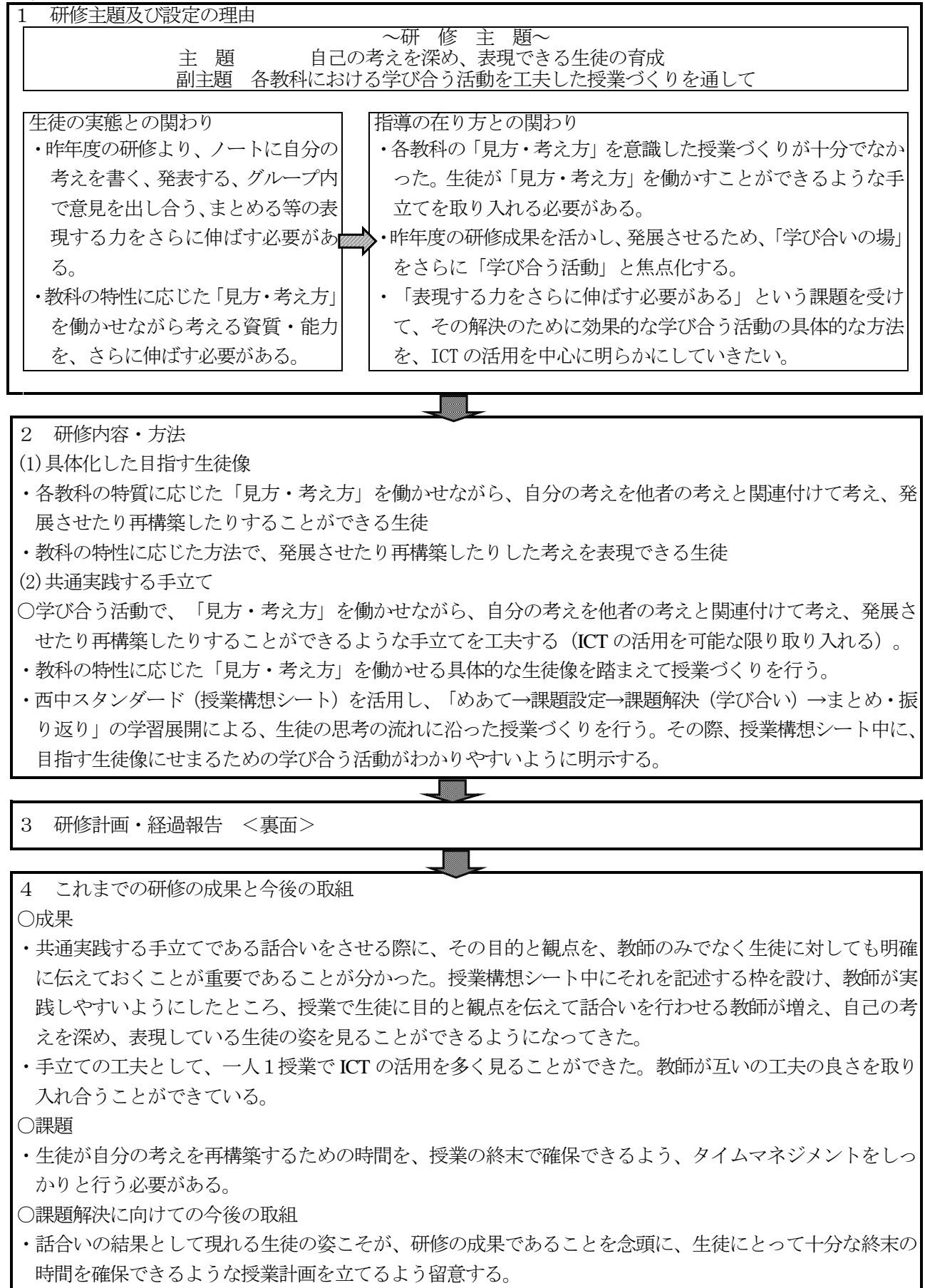
(4) 安心で安全な環境整備 【セイフティ沼田】 【幼小中連携・一貫教育】

- ①学校安全マニュアルの継続的な見直しと幼小中の連携を生かした安全管理・危機管理の充実
- ②学校支援センターを機能させた地域連携による教育活動の質的充実
- ③掲示物や花・緑など、地域や関係機関と連携した温かみのある環境の整備
- ④食物アレルギーや感染症対策等に関する全教職員の共通理解と協働体制の充実
- ⑤小学校と連携した規律正しい生活習慣の確立等による生徒の健康安全の増進

(5) 高い専門性を活かした愛情あふれる指導の実践 【提案型・課題解決型の職員集団の構築】

- ①本年度の重点の具現化に向けPDCAサイクルを活用したボトムアップの1割改善の推進
- ②人事評価制度と同僚性を活かした指導力等の向上
- ③意識改革と業務改善による多忙化の解消
- ④多面的な生徒理解と共感的な人間関係に基づく、生徒の積極的な認知や賞賛

II 校内研修の推進



3 研修計画・経過報告 指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段) ・明らかになったこと (下段)]
4/17	全体会 (第1回) ・研修主題、研修の方向性	○研修主題・研修内容・研修組織等について ・研修主題「自己の考えを深め、表現できる生徒の育成」副主題「学ぶ合う活動を工夫した授業づくりを通して」に決定
5/22	全体会 (第2回) ・副主題、手立て	○研修副主題について ・副主題に領域を加え、変更
6/12	全体会 (第3回) ・A 訪問について	○A 訪問に向けて ・当日の日程、必要なものなどの最終確認
6/15	指導主事訪問 A	○研修を充実させるために重要なことについて ・課題設定の工夫、話し合いの目的と観点の明確化、学習活動の精選と終末の時間の確保
6/29	授 一人一授業 (技術・井上教諭)	・話し合う手順や、話し合いの内容や視点を明確にしておくといい。話し合った結果やポイントを書き留めるワークシートがあるといい。
7/10	全体会 (第4回) ・A 訪問を受けての研修内容の検討 ・一人一授業について	○研修を進める上で今後重要なことについて ・発問の吟味、タイムマネジメントが大切である。 ○共通理解しておきたい課題 ・手立てである話し合いは、目的と観点を明確にして、生徒に理解させた上で行う。
7/13	授 一人一授業 (英語・小林利教諭)	・話し合いの目的と観点を、生徒に明確に示したことが有効だった。
7/18	授 一人一授業 (数学・小林勇教諭)	・思考する手順を表すシートが個々に送られたことで、生徒は書き込みながら考えられていた。また、思考の統一化に有効だった。
8/25	全体会 (第5回) 指 B 訪問指導案検討①	○本時の学習 (学習活動と手立てを中心に) について ・手立ての有効性が見えるような展開を検討する必要がある。
9/7	授 一人一授業 (英語・阿部美教諭)	・個々に音読を録音し、互いに聞き合ったり全体で共有したりしたことで、自分の感想を入れた英文を作る生徒が増えていた。
9/13	授 一人一授業 (社会・阿部大教諭)	・活動の精選、予想を立てさせて方向付けするなど、考えを再構成させるための工夫が必要である。
9/14	授 一人一授業 (理科・諸田教諭)	・試行錯誤したり全体で瞬時に共有できたりするという、ICT の良さが発揮されていた。また、自分の考えが可視化されていた。
9/22	授 一人一授業 (国語・宮田教諭)	・活発な話し合いがされ、考えが深まっている様子が見られた。 ・個々が考えをまとめられるよう、終末の時間を確保する必要がある。
10/5	授 一人一授業 (体育・吉野教諭)	・動画を撮ることで、自他の課題に気付いてアドバイスできていた。また自分の姿を客観視することで、意識すべき点を分析できていた。
10/4	職員による B 訪問模擬授業 指 B 訪問指導案検討②	○本時の学習 (めあてと学習活動、手立て) について ・意欲的に取り組めそうな学習活動である。話し合いの目的と観点を明確にする必要がある。
10/10	授 一人一授業 (音楽・新井教諭)	・録画を見ることで、自分たちを客観視でき、しっかりと話し合っていた。
10/16	全体会 (第6回) 指 B 訪問指導案検討③	○指導案の最終検討 ・本時の学習の時間配分を調整する。生徒の考えの共有方法をわかりやすく記す。

10/18	授 一人一授業（道徳・高橋教諭）	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な投げかけによって、生徒の反応に変容が見られた。 生徒の意見の中からねらいに迫れそうなものを取り上げて、全体で議論させると良かった。
10/25	授 指導主事訪問 B（家庭科・岩崎教諭）	<ul style="list-style-type: none"> 全体共有の場面での、教師の問い返しが効果的だった。 めあての「ベストな選択」をさせるには場面設定があると良かった。
11/7	授 一人一授業（理科・阿部政教諭）	<ul style="list-style-type: none"> ICT での写真や資料の提示がわかりやすく、効果的だった。また、ICT でデータを調べるのも、スムーズな活動につながっていた。
11/13	全体会（第7回） ・ B 訪問を受けての研修内容の検討	<ul style="list-style-type: none"> ○B 訪問での指導助言について 授業構想シートに、本時の具体的な指導が端的に記述されていることは、研修を積み上げていく上で効果的である。 活動の精選や教科の特性に応じた振り返り等を通して、タイムマネジメントをすることが肝要である。
12/6	授 一人一授業（社会・春日教諭）	<ul style="list-style-type: none"> ICT の活用により、話し合いの活性化や根拠の明示につながった。話し合いや全体での共有により、考えの変化、深まり、広がりが見られた。
12/18	全体会（第8回）	<ul style="list-style-type: none"> ○「沼田市の教育」原稿に関する検討 ・今年度の研修の報告書内容を全体で確認。
1/22	全体会（第9回）	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の研修の成果と課題の検討 ・成果：話し合いの目的と観点を生徒に明確に伝えておくことの有効性 ・課題：授業のタイムマネジメント
2/19	全体会（第10回）	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の研修のまとめ ・生徒の変容、来年度への課題の検討。
3/4	全体会（第11回）	○来年度の研修について

※資質向上研修

月日	区 分	講師、担当	実 施 内 容
5/22	一人1台端末に関する研修	吉野教諭	クロームブックの活用法
5/29	食物アレルギーに関する研修	養護教諭	食物アレルギーの緊急対応法
8/28	救急救命に関する研修	養護教諭／中央消防署	救急救命法、AED の使用法実習
10/30	安全に関する研修	安全主任／沼田警察署	不審者対応

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	中 島 潔	教 諭	宮 田 淳 子
教 頭	佐 藤 啓 文	〃	野 上 沙 織
教 諭	井 上 治 男	〃	阿 部 大 地
〃	阿 部 政	〃	金 子 友 美
〃	小 林 利 香	〃	星 野 嘉 恵
〃	阿 部 美 穂	養護教諭	倉 澤 利 佳 子
〃	高 橋 宏 輔	統括補佐事務長	小 野 千 代 子
〃	新 井 智 子	SSW	松 岡 一 明
〃	春 日 大	S C	小 林 一 郎
〃	吉 野 智 彰	部活動指導員	金 子 功
〃	小 林 勇 太	教育支援員	飯 塚 貞 子
〃	諸 田 遼 平	用 務 員	樋 口 栄 二
〃	岩 崎 雅 大	教員業務支援員	渡 邊 司

沼田東中学校

所在地 〒378-0002 沼田市横塚町1118番地
電話番号 0278-22-2472 FAX 22-9859
校長名 佐々木 孝

I 学校の経営

1 学校の教育目標

- 基本目標 『敬愛』… 個性を尊重し合い、共に個性を生かし合って学ぶ
『誠実』… 感謝と真心をもって実践する
- 目指す生徒像 『自発』… 「自ら学び続け、考え、鍛える生徒」
『責任』… 「責任のもてる判断、行動をする生徒」
『協力』… 「知恵と勇気を集め、課題を解決する生徒」
『礼儀』… 「互いに気持ちの良い生活を求め、実践する生徒」
- 目指す学校像 『さわやかで、笑顔あふれる、魅力ある学校（教師）』
 - ・ 師弟同行、率先垂範を教育活動の基本に据え、実践する学校（教師）
 - ・ 教育職としての高い意識をもち、使命感・情熱をもって指導する学校（教師）
 - ・ 職責に真摯に向き合い職務にあたるとともに、周りへの協力・支援ができる学校（教師）
 - ・ 生徒一人一人のよさや取組を認め、生徒に自己肯定感をもたせる学校（教師）

2 経営方針

【本年度の重点目標】生徒の『自己有用感』を高める教育活動の充実

- (1) 確かな学力の育成を目指す指導の改善と充実
- (2) 豊かな心と自主性・主体性を育てる指導の充実
- (3) 心身の健康の増進と体力の向上
- (4) 生徒指導・特別支援教育の充実
- (5) 家庭や地域、小学校との連携、キャリア教育・進路指導の充実
- (6) 持続可能な運営体制の構築及び多忙化解消に向けた勤務環境の改善

3 本年度の重点施策

〈学校経営方針の(1)について〉【サマースクール沼田】【家族で本を読みましよう】

- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進及びカリキュラムマネジメントの充実
- ・ 育成すべき資質・能力を明確にした内容や時間のまとまりを見通した単元や題材の構想（必要感）のある課題の提示と身につけた知識・技能の活用
- ・ 単元で身につける資質・能力に基づいた、単位時間における「めあて」「見通し」「学び合い」「振り返り」「評価項目」を意識した各教科の「見方・考え方」を働かせる学習活動の充実
- ・丁寧な教材研究や互いの授業を見合う授業研究等による教師力の向上
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて1人1台端末を効果的に活用した学習指導の工夫
- ・ 読書活動の充実とそれを支える図書室の環境整備

〈学校経営方針の(2)について〉【命を守り育てる教育】【教育部活】

- ・ 教室環境や言語活動の整備など、生徒一人一人の存在や思いを大切にする人権教育の徹底
- ・ 「考え（考えをもつ）・議論（考えを広げる・深める）する」道徳科に向けた指導の充実
- ・ 生徒が「自己有用感」を感じられる学年・学級づくり
- ・ 挨拶・返事・礼儀・接遇等の基本的な生活習慣の充実
- ・ 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実（「SOSの出し方に関する教育」プログラムの活用）
- ・ 自主的・主体的に取り組み生徒を育成するための教師の支援による教育部活動の充実

〈学校経営方針の(3)について〉【教育部活】【セイフティ沼田】

- ・ 学校保健委員会を中心とした心の健康、食育の推進及び感染症対策の徹底
- ・ 体力向上プランを踏まえ、教科体育を核とした学校体育の充実
- ・ 生徒の危険予測・危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進

〈学校経営方針の(4)について〉【沼田市SNSルール】【命を守り育てる教育】

- ・ 自己指導能力の獲得を支える生徒指導の「4つの視点」による指導の充実
- ・ 取組への「よさを認め、励ます」指導による「自己有用感」の高揚
- ・ 生徒指導委員会を核にした迅速な情報共有による組織的・計画的な生徒指導態勢の推進
- ・ 「個別の教育支援計画・指導計画」を基にした「合理的配慮」を意識した教科指導の推進
- ・ いじめ事案に対する法に基づく適切な対応及び不登校支援も含めた未然防止、組織的・計画的な対応の充実

〈学校経営方針の(5)について〉【幼小中連携】【沼田大好き！ふるさと学習】

- ・ 家庭と連携した挨拶、早寝早起き、家庭学習等の生活・学習習慣の確立
- ・ 地域の理解や地域素材を活用した「東中大好き、利南大好き、沼田大好き」ふるさと学習の推進
- ・ 学校と家庭、地域が連携・協働した教育活動における地域の人的・物的資源の積極的活用
- ・ 小中連携による各教科等の学びの連続性を意識した教育課程編成の推進
- ・ キャリアパスポートを活用した自分の生き方を見つめ、夢や希望を育むキャリア教育の推進

〈学校経営方針の(6)について〉

- ・ 信頼される学校づくりのための教職員の資質向上と服務規律の確保
- ・ 報告・連絡・相談のしやすい風通しのよい職場作りの推進
- ・ 働き方改革に向けた教職員の意識の高揚と業務の効率化・最適化に向けた具体的な取組の推進
- ・ 年間を見通した計画的な年次休暇の取得推進

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 知識・技能を身に付け活用できる生徒の育成
副主題 ～深い学びを実現するための支援の工夫を通して～

生徒の実態との関わり

- ・ 目指す生徒像を明確に示したことで、深い学びを達成した生徒の姿が少しずつ見られるようになってきた。
- ・ 生徒の思考力や表現力などが不十分で、学びが深まらないことがあった。

指導の在り方との関わり

- ・ 引き続き、深い学びを達成した生徒の姿を各教科で明確にしていく必要がある。
- ・ 生徒の思考や態度の変容に焦点を当て、それにつなげるための具体的な支援の工夫を検討する必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

- ・ 各教科で身に付けた知識・技能を、問題解決の場面等で相互に関連付けながら、教科の見方・考え方を働かせて活用することができる。
- ・ 見通しをもって主体的に学習に取り組み、他者の考えを取り入れながら自分の考えを深め、他教科や社会生活で生かそうとすることができる。

(2) 共通実践する手立て

- ・ 深い学びを達成した姿を客観的に判断するために、各教科で深い学びが達成された生徒の姿を具体的に示し、それを元に単元や題材で生徒が深い学びを達成した姿を明確にする。
- ・ 生徒の思考や態度の変容が見られることを深い学びが達成された姿の入り口とし、教科ごとの見方・考え方を働かせて知識・技能を活用しているかどうかで学びの深まりを判断する。
- ・ 生徒が深い学びを達成できるよう、ICT 機器の活用や教材等の工夫、交流のさせ方の工夫など、具体的な支援を十分に検討しながら繰り返し実践し、よりよい支援に改善していく。

3 研修計画・経過報告 <次ページ>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・ 生徒の思考や態度の変容が見られることを深い学びが達成された姿の入り口としたことで、授業研究会の際に同じ視点で議論することができた。
- ・ 自他の考えを比較しながら参考になるものを取り入れ、考えを深められる生徒が増えてきた。

○課題

- ・ 生徒の思考の流れを可視化する必要性に気付かされた。ワークシートや ICT 機器の活用、板書の工夫等によって生徒の思考の流れを可視化することで、生徒自身も自らの変容に気付くことができ、深い学びの達成につなげることができるため、積極的に活用できるとよい。
- ・ 課題設定や教材の工夫、思考ツールの活用等の様々な支援の工夫により、生徒の思考を深い学びへ向かわせることはできたが、活用できる段階まで十分に知識・技能を定着できていないという生徒の実態により、深い学びを達成できなかった場合もあった。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・ 知識・技能の定着に向けた繰り返し学習を充実させ、全体的な学力向上を図る必要がある。
- ・ 深い学びを達成するために、思考力・判断力・表現力を高める工夫を考える必要がある。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4.17	・校内研修主題の確認	○主題、副主題の検討 ・副主題は「深い学びを実現するための支援の工夫を通して」に決定。
5.8	・各教科の目指す生徒像、指導案の形式について	・目指す生徒像の検討 (教科部会での確認) ・指導案の形式の確認
5.29	・年間授業予定、組織編成 ・授業者の確認 ・要請訪問 A に向けて	・研修計画等の確認 ・1人1授業、要請訪問 B の授業者の検討 ・1人1授業の授業実践について
6.5	・指導主事要請訪問 A	・授業検討会を通して今後の研修の方向性を検討
6.13	授 数学科 田村教諭	○条件を不足させる課題設定の工夫 ・方程式が解けないという体験を全員で共有できたため、本時の学習のめあてに向けて取り組めた。
6.19	授 社会科 津久井教諭	○思考ツールを活用して思考を可視化する工夫 ・りんごの木チャートを活用することで、生徒の思考の流れや考えの変容を見取ることができた。
6.19	・指導主事要請訪問 A を受けての反省と今後の課題	・各教科における授業実践とまとめ ・指導事項の確認と今後の取組の見直し
6.27	授 音楽科 中村教諭	○曲を4部に分割して音楽の特徴を考えさせる工夫 ・思考の言葉を掲示し、4部に分けて鑑賞したことで、深く感受して考えることができた。
7.19	授 英語科 林教諭	○英会話を想定したキーワードの準備の工夫 ・事前にキーワードを準備することで、積極的に英語を用いてコミュニケーションできていた。
9.4	・2学期の予定 指 要請訪問 B 指導案検討①	・2学期の研修予定について ・要請訪問 B までの計画の確認 ・指導案の形式、授業構想について
9.19	指 要請訪問 B 指導案検討②	・授業の視点と校内研修との関わりについて ・ねらい、指導計画、評価項目等について ・深い学びにつなげる支援について
9.27	授 理科 小幡教諭	○視覚的に分かりやすい観察教材の工夫 ・コーヒー粒が溶ける様子をじっくり観察させたことで、現象を自分なりの言葉で表現できた。
10.2	授 理科 篠澤教諭	○複数の実験結果から比較するものを考察する場面設定の工夫 ・どの実験結果を比較するかを話し合わせたことで、対照実験の意義を理解し、根拠を示して考察できた。
10.2	指 要請訪問 B 指導案検討③	・単元構想、教材観について ・めあての提示から振り返りまでの1時間の授業の流れについて
10.3	授 数学科 町田教諭	○ICT機器を活用した支援の工夫 ・ロイノートで個別にヒントカードを配布することで、生徒の進度に応じて支援することができた。
10.18	・指導主事要請訪問 B 授 国語科 登坂教諭	○文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えさせる課題設定の工夫 ・教科書の物語とは違う展開を考えさせたことで、物語に凝らされた様々な工夫に気付くことができた。 ・ICT機器を効果的に活用したことで、短時間で交流することができ、考えを深められた。
10.24	授 社会科 高橋教諭	○ジグソー法を用いた学習形態の工夫 ・テーマごとに班を分け、調べた内容を補完し合うことで、貧困問題の原因を多面的に考察できた。

11.13	・ B 訪問を受けて	・ B 訪問を受けて、今後の校内研修の方向性の確認
11.30	授 保健体育科 星野教諭	○ ICT 機器を用いて、チームの課題を考えさせる工夫 ・ 試合の様子を動画で撮影し、それを見ながら考えさせたことで、チームの課題を見付けやすくなった。
12.11	・ アンケート、研修紀要について	・ アンケート配布 ・ 研修紀要（翠松）について
12.12	授 道徳科 高坂教諭	○ ホワイトボードを活用した意見交流の工夫 ・ ホワイトボードでグループの意見を集約、整理したことで、他者の意見を取り入れながら、自分の考えを深めることができた。
1.22	・ アンケートのまとめ	・ 成果と課題、生徒の変容の確認 ・ 沼田市の教育について
2.19	・ 来年度の研修について	・ 来年度の研修の方向付け ・ 年間指導計画・評価計画の修正

※資質向上研修

月日	研修計画 [内容]		実施内容
	区分	講師	
5.22	メンター研修①	メンター研修担当	・ 評価システムの紹介及びその使い方について
5.29	学校保健に関する研修	養護教諭 榎 窓	・ 救急体制、アレルギー対応、熱中症対応について
6.19	学習指導に関する研修	全職員	・ 振り返りの紹介及びアドバイス
6.26	メンター研修②	メンター研修担当	・ 成績処理について ・ 成績処理以外の副担任の仕事や役割について
7.3	生徒指導に関する研修	スクールカウンセラー 小林 一郎	・ ゲーム依存について
8.28	メンター研修③	メンター研修担当	・ 運動会に向けて
10.16	メンター研修④	メンター研修担当	・ 三者相談の進め方について
11.13	学校保健に関する研修	養護教諭 榎 窓	・ 嘔吐物処理について ・ 感染症対策について
11.13	学習指導に関する研修	全職員	・ 各教科の振り返りについて ・ 学力向上に向けた取組について
12.18	メンター研修⑤	メンター研修担当	・ 進路指導について

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名
校長	佐々木 孝	教諭	小幡 儀見
教頭	栗原 伸明	〃	佐藤 広幸
教諭	林 秀紀	養護教諭	榎 窓
〃	町田 実	主任事務長代理	保坂 歩
〃	篠澤 敦子	非常勤講師	萩原 裕子
〃	津久井 仁美	〃	金子 友美
〃	田村 晃宏	〃	野上 沙織
〃	登坂 俊介	スクールカウンセラー	小林 一郎
〃	高橋 浩美	用務員	穴戸 裕康
〃	高坂 拓歩	拠点校指導員	下田 洋一
〃	星野 颯	初任研後補充	亀山 晶子
〃	中村 亮太	〃	松井 亮子

池 田 中 学 校

所在地 〒378-0073 沼田市発知新田町533番地
電話番号 0278-23-9330 FAX 23-9273
校長名 金井 綾子

I 学校の経営

1 学校教育目標

【心の豊かさを求める生徒】 【技の確かさを求める生徒】 【体の健やかさを求める生徒】

2 学校経営方針

「一人一人がきらりと輝る池田中」

(1) 目指す学校像

- ・生徒が充実感をもって学校生活を送る学校
- ・保護者が信頼して任せられる学校
- ・地域が誇りにできる学校

(2) 目指す生徒像

- ・互いのよさを認め合い、礼儀正しく思いやりのある生徒
- ・自ら課題を見付け、積極的に学習する生徒
- ・すすんで体を鍛え、心身共に健康な生徒

(3) 目指す教職員像

- ・生徒一人一人のよさを認め、夢や希望をもたせる教職員
- ・常に専門性の向上を目指し、生徒の個性や能力を伸ばす教職員
- ・保護者、地域、同僚から信頼される教職員

3 本年度の重点施策

(1) 学校経営の充実

- ・地域住民との協働による教育活動の充実に努め、温かく活力に満ちた学校経営の充実に図る。
- ・「全職員で全生徒をみる」きめ細かな指導を通して生徒の多面的理解を図る。
- ・連絡・報告・相談を密にし、教育談義のできる明るい風通しのよい環境作りに努める。
- ・人事評価制度や各種研修を活用し、職員個々の職能成長を図る。

(2) 豊かな人間性の育成【沼田大好き！ふるさと学習】

- ・道徳科を中心として、全教育活動を通して自他のよさを認め合うことのできる生徒の育成を図り、温かな学校・学級作りを推進する。
- ・信頼関係を基盤にした生徒指導を推進し、生徒の自己肯定感や自己有用感を育む。
- ・すすんであいさつ、返事ができ、周囲に笑顔と感謝を表せる生徒を育成する。
- ・生徒主体の活動や行事、あいさつ運動等を通して、思いやりの心や温かい人間関係を育む。
- ・「池田小中学校 沼田大好き！ふるさと学習」を推進し、郷土のよさを理解し、郷土に愛着のもてる人間性豊かな生徒を育成する。

(3) 確かな学力の向上【振り返り学習】【沼田市・先生の日】

- ・ねらいを明確にし、それに沿った学習活動、振り返りを行うことにより、わかる授業、楽しい授業の実践に努める。
- ・管理職の授業参観を日常的に行い、それをフィードバックすることにより、教師の指導力の向上を図る。
- ・一人1授業の研究授業と授業研究会を通して、若手もベテランも自己の授業改善に取り組む。
- ・家庭学習の内容や方法を工夫し、自主学習ノートを毎日提出させることで、家庭学習の習慣化を図る。
- ・各種テストにおいて、標準点前年度プラス2を目指す。

(4) 体力の向上・健康増進【教育部活】

- ・体力向上プランに基づき、視点を明確にした保健体育の授業や体育的行事、部活動指導を継続的に実践することで、持久力や筋力、運動技能を高め、体力の向上を図る。
- ・部活動においては、教育部活の理念に基づいた活動を行い、副顧問の配置や外部指導者の招へいなどにより、安全確保や技術面の向上を図る。
- ・保健だよりや掲示物等による啓発活動を通して、疾病治療率の向上やよりよい生活習慣の定着を図る。また、学校保健委員会の取組により、健康の増進や体力向上を図る。

(5) 家庭・地域・小中連携【小中連携・一貫教育の推進】【家族で本を読みましょう】

- ・小中連携推進会議を年3回開催し、様々なギャップを取り除き、教育効果を上げるための連携を推進していく。
- ・小中合同でのあいさつ運動や、英語科における指導、小中相互の授業参観等を通して、小中での指導・学びを連続させるとともに、児童・生徒の多面的理解に努める。
- ・駐在所や池田地区防犯パトロール隊等と協力し、地域全体で生徒の安心安全を守る体制をつくる。

(6) 安全教育の推進【セイフティ沼田】【沼田SNSルール】

- ・避難訓練、交通安全教室等を通して、生徒自身の危機管理意識や危険回避能力を高める。
- ・学校保健委員会を中心に、SNSについての啓発や、池中SNSルールの見直し等を行い、家庭と連携し、情報モラル教育の充実に努める。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

主 題
副主題

～研 修 主 題～
主体的に学ぶ生徒の育成
対話的な場面の工夫を通して

生徒の実態との関わり

・多くの生徒は、与えられた課題には真面目に取り組むことが出来る。
・自分の考えを積極的に表現することが苦手な生徒が多い。また、難しい課題に粘り強く取り組める生徒は少ない。そのため、自分の意見や考えを発表するだけにとどまってしまう、お互いの考えをすりあわせ、よりよい考えを導き出したり、新たな考えを創造したりすることに課題がある。

指導の在り方との関わり

・自分の考えや気持ちを意欲的に伝え合ったり、他者の見方や考え方に触れ、自分一人では気づけなかったことに着目したり、自分の考えに自信を持たせるために、対話的な場面を設定する必要がある。
・授業者が意図的にそのような活動を設定し、学習課題や、学習環境、支援等様々な手立てを工夫して授業実践を行う。

2 研修内容・方法

(1) 具現化した目指す生徒像

協働して粘り強く学習に取り組み、自己の考えを広げ深めている生徒。

(2) 共通実践する手立て

- ・授業で他者との意見を効果的に交流させる場を設定する。
- ・意欲的に取り組めるような学習課題を設定したり、提示資料やICTツールや活動時間など場の設定を工夫したり、考えや話し合いを深めるための教師の発問や問い返し、ワークシート、板書など教師の手立ての工夫をした授業実践を行う。
- ・指導案に、自己の考えを広げ深めるための対話的な場面の工夫を明記し、視点を明確にする。
- ・ロイロノートを用いた授業研究会を行う。

3 研修計画・経過報告〈次ページ〉

4 これまでの研修の成果と今後の取り組み

○成果

- ・各教科において、意見を効果的に交流させる場を設定するために、学習課題の設定や提示資料、ワークシート、ICTの活用等の工夫を行ったことで、主体的に活動できる場づくりができた。
- ・視点を絞った授業研究会により、主題に迫る研究を効率的に行うことができた。

○課題

- ・自分の考えをもとに、他者との意見を交流させる場は設定できたが、活発に交流し、考えを合わせたり、深めたりすることに課題が残った。

○課題解決に向けての今後の取り組み

- ・生徒が意見交流する場を繰り返し設定し、経験を重ねることで、話し合いに慣れさせたい。
- ・教師が考えを深められるような発問や手立てを工夫する。
- ・引き続き、ワークシートの工夫や効果的にICTを活用していく。

3 研修計画・経過報告 指 指導案検討 授 授業研究会

月日	研修計画〔内容〕	経過報告〔○研修の視点(上段) ・明らかになったこと(下段)〕
4.10	全体会① ・研修計画の検討	○研修主題、研修内容について ・研修主題「主体的に学ぶ生徒の育成」、副主題「対話的な場面の工夫を通して」に決定。
4.24	全体会② ・研修内容の検討	○目指す生徒像について、A訪問の指導案の形式について ・各教科で目指す生徒像の確認。
5.29	全体会③ ・授業実践の確認	○一人1授業実践、授業研究会の進め方について ・実施時期の決定とロイロノートを用いた授業研究会の確認。
6.1	指導主事訪問A	○今後の研修の方向性について
6.19	全体会④ 授 2年理科 「化学変化と原子分子」阿部教諭	○原子モデルや実験動画などによる話し合いを深める工夫と、ロイロノートでの提示による全体共有 ・生徒は興味・関心を持って授業に取り組んでいた。活発な話し合いにするためにはルールや教師の支援が必要である。
7.18	全体会⑤ 授 1年国語 「字のない葉書」西本教諭	○個からグループでの話し合いの結果を記入できるワークシートの工夫とロイロノートの活用 ・個人で考える時間は十分に取れていたため、生徒は自分の考えを書いて話し合うことができた。グループでのロイロノートの操作に慣れれば、話し合う時間も増えると考えられる。
8.28	全体会⑥ ・今後の確認	○1学期の授業実践のまとめ、2学期の予定の確認 ・指導主事訪問Bまでの予定の確認
9.25	全体会⑦ 指 岡田教諭	○指導主事訪問Bの指導案検討
	全体会⑧ 授 1年社会 「古代国家の歩みと東アジア世界」小林教諭	○個で分担して調べたことをグループで集約するYチャートの活用 ・導入で教師と生徒の対話から本時の授業への興味・関心が高まった。調べてまとめる場面では個の活動が中心だったので、生徒同士の交流の場があるとよい。
10.2	全体会⑨ 指 岡田教諭	○指導主事訪問Bの指導案検討
10.19	指導主事訪問B 授 1年英語	○グループでお互いの発表を聞き合い、良いところを取り入れ、さらに詳しく紹介する文を考える工夫

	「Program6」岡田教諭	・メモをとりながら友達の発表を聞くことで、紹介文に必要な情報や表現をさらに付け足して、自分の文章に反映させることができていた。時間配分を考えて、最後のまとめで生徒の書いた文章を紹介できると良かった。
11.27	全体会⑩ 授 山口教諭	○グループ活動による、喫煙、飲酒、薬物乱用要因の分類でのロイロノートの活用、対処方法を考えるためのロールプレイの実施 ・喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけは身近にあるが、自分の意志で絶対にやらないという意識をつける上で有効であった。まとめの時間をしっかりとると良い。
12.18	全体会⑪ 授 鈴木教諭	○小グループで、知覚したことと感受したこととの関わりをロイロで整理しながら考える場面の設定 ・生徒が興味・関心を持てる題材だった。ワークシートが工夫されていて、教師が丁寧に説明をしながら授業を進めたのでどのグループもねらいに迫る活動ができていた。
1.29	全体会⑫ ・研修のまとめ	○今年度の研修の成果と課題 ・実践を振り返り、成果と課題を明確にする。
2.26	全体会⑬ ・来年度について	○次年度の研修内容について ・成果と課題をもとに、次年度の構想を検討する。

資質向上研修

	区分	講師	内容
5.8	学校保健	養護教諭	・食物アレルギー、熱中症の対応
6.26 8.22 10.30 11.20 1.24 2.26	メンター研修	メンターチーム リーダー	・主体態の成績の付け方 ・学級経営について ・三者面談について ・3学期に向けた指導について ・スクールカウンセラーの講義 ・来年度に向けて

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	金井綾子	教諭	岡田華	教諭(学校間連携)	正田由佳
教頭	今井幸生	〃	山岸信之	非常勤講師	萩原裕子
教諭	阿部万里子	〃	山口傑	拠点校指導員	下田洋一
〃	西本一崇	養護教諭	宮下純香	初任研後補充	佐藤多喜男
〃	鈴木香穂	事務主事	松本あゆみ	SC	阿左見康成
〃	小林寿雄	教諭(学校間連携)	林徹志	用務員	石田久米幸

薄根中学校

所在地 〒378-0064 沼田市善桂寺町40番地
電話番号 0278-22-3180 FAX 22-9860
校長名 松井 秀幸

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) 基本目標

豊かな人間性、高い知性、たくましい身体を育て、自ら考え、正しく判断し実践できる生徒の育成を図る。

(2) 具体目標

- 「友愛」 自らに厳しく、思いやりのある、明るい礼儀正しい生徒
- 「英知」 自ら学び続け、知性を磨く創造性豊かな生徒
- 「健康」 自ら鍛え、心身共にたくましい生徒

2 経営方針

(1) 指す学校像

「生徒が充実感をもてる学校」 「保護者から信頼される学校」
「地域が誇りにできる学校」 「教師のよさを発揮できる学校」

(2) 目指す生徒像(う・す・ねの心を身に付ける)

「う」美しい心……………自他を大切にし、あいさつができる生徒
「す」進んで取り組む心……………自分で決めたことを実行していく生徒
「ね」ねばり強い心……………目標に向かって努力を続ける生徒

(3) 目指す教職員像…熱意、愛情、誠意のあふれる教職員

- ・各主任のリーダーシップによる組織的な役割分担を通して資質向上を目指す教職員
- ・学校課題を分析し明確化することにより、解決に向けて努力する教職員
- ・日常的に授業改善に努力すると共に、人事評価制度等を職能成長に生かす教職員
- ・校務の効率化による多忙感の軽減と風通しのよい職場を作る教職員
- ・教職員一人一人のよさを生かし、学校経営に自ら参画する教職員

3 本年度の重点施策

(1) 「豊かな人間性」を育てる指導の充実

- ①「特別の教科 道徳」における「考え・議論する」等の指導方法、指導体制を改善し、全教育活動を通して道徳的実践力を育成する。
- ②体験的な学習活動やボランティア活動等を通して、違いを認め自他を受容し、相手の立場に立って考え互いの尊厳を認め合う心を育成する。
- ③部活動の地域移行を踏まえ、部活動の意義とねらいを理解させ、目標に向かってねばり強く取り組む実体験を重視する。

(2) 「高い知性」を育てる指導の充実

- ①ねらいを吟味し、見通しと振り返りを明確にした一単位時間における授業改善に努める。
- ②主体的・対話的で深い学びにつながるように、教科横断的に学び考える活動を通して、学ぶ楽しさや喜びを実感させる。
- ③1人1台端末を効果的に活用した学習活動や学習過程を工夫し、学習意欲の向上と深い理解とともに授業のねらいを達成する。

(3) 「たくましい身体」を育てる指導の充実

- ①健康リズム、質の高い食事や睡眠を理解させ、免疫力を高めながら、基本的な生活習慣の確立を推進する。
- ②感染症に対する正しい知識と感染防止対策を習慣化し、新型コロナウイルス感染症等の流行の防止を自ら実践できる力を育成する。
- ③学校保健委員会の機能を活用して、心の健康、食育指導の推進を図る。

(4) 生徒指導・特別支援教育の充実

- ①生徒指導委員会を核として全教職員の共通理解のもとに、組織力で積極的な生徒指導を推進する。
- ②多面的・多角的な視点から生徒理解に努め、成長の過程や変化を見取り「よさを認め、励ます」指導により生徒の可能性を伸長する。

(5) 家庭、地域や幼小中の連携、進路指導やキャリア教育の充実

- ①家庭との連携により、基本的な生活習慣や学習習慣を確立する。
- ②地域との連携により、「薄中大好き、薄根大好き、沼田大好き」の特色ある教育活動を推進する。
- ③「なめらかな接続」と「適度な段差」等により、幼小中が連携した教育活動を推進する。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～
主体的に学びに向かう生徒の育成
～教科の特質を生かした学習課題の工夫と振り返りを通して～

生徒の実態との関わり

- ・本校生徒は教師の与えた課題に対して取り組むことができる。しかし、自ら深めたり交流したりすることは少なく、自ら課題を設定し、主体的に学びに向かう生徒の育成は学校の課題である。
- ・振り返り学習を取り入れた活動は生徒に学びの自覚化・意識化をうながしており、継続的に取り組むことが基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることにつながっていくと考える。

指導の在り方との関わり

- ・主体的に学習に取り組むために、学習意欲を高める学習課題の工夫や、明確な学習のゴールの設定を目指す。
- ・「振り返り学習」を行うことにより、生徒の学びに対する達成や、課題への自覚を促し、主体的な学習への意欲を高める。
- ・本校では教師全体の資質向上を目指し、メンター研修等を行なう。異なる年齢層の教師同士の意見交換や、他教科間の意見交流を行い、学び合う関係作りを目指す。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

本校の「主体的に学びに向かう生徒」生徒像とは

- ・一単元、あるいは一授業の「めあて」から学習のゴールを知り、見通しを立てながら学習する生徒
- ・一単元、あるいは一授業の「振り返り」を通して自らの課題を知り、学びの自覚を持って学習する生徒

(2) 達成するための共通実践する手立て

具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践を以下の1、2に示す。

①「教科の特質を生かした学習課題の工夫」について

- 生徒が単元や題材、一単位時間で解決する学習の方向をイメージできるように課題の設定を工夫する。
- 教科の特質に応じて、以下の観点から学習課題を設定する。
 - ・生徒が主体的に取り組む課題解決学習
 - ・学んだ知識を生かした活用・探究を見通した学習課題の設定
 - ・知識・技能と社会や生活の結び付きを見通した学習課題の設定

②教科の特質を生かした「振り返り」について

- 単元や題材、一単位時間での終末場面における振り返りにより、「何を学んだか」「どのように学んだか」などを表出させ、学びを自覚させる。
- 「振り返り学習」において、教科の特質に応じて見取りたい生徒の姿を明確にする。
- 「振り返り」活動を以下の場面で精選する。
- 授業の終末場面での振り返り学習
- 単元を通した振り返り学習

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・各教科における学習課題の工夫、および振り返る学習の実践に取り組むことができた。生徒が学習に対して課題意識をもって授業に取り組む姿を見ることができた。
- ・生徒タブレット利用について研修を深め、シンキングツールなど実践的活用をすることができた。

○課題

- ・各学年で家庭学習の指導を行っているが、生徒によって取り組む内容や学習内容の定着に差が生じた。
- ・振り返りをプリントやノート等を使って行う場合とタブレットを使って行う場合の使い分けが適切でなかった。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・NRT標準学力検査や全国学力・学習状況調査の結果などの分析、授業実践の反省などを教科部会で行っていく。
- ・学習課題を生徒が設定する工夫について研修を深めていく。
- ・各教科の特性に応じて、振り返りについて研修をさらに深めていく。

Ⅲ 研修計画・経過報告

全は全体会 推は推進委員会 指は指導案検討 授は研究授業 メはメンター研修 教は教科部会

月日	研修計画「内容」	経過報告「○研修の視点（上段）・明らかになったこと（下段）」
4.17	推1 今年度の研修主題・内容等について	○研修の方向性の確認 ・教科の特質を生かした学習課題について検討できるよう教科部会を構成した。また、研修内容や方法の確認を行った。 ○学級活動で活用するためのアイスブレイク研修 ・言葉を使わない活動や協力を要する活動は、学級開きの際に人間関係を構築するのに有効であることを体験することができた。
4.24	全1 研修主題の設定、授業計画立案、研修計画書	
5.8	全2 生徒用タブレット研修 教	○生徒用のタブレットについての研修 ・英語の実践例の紹介を行った。生徒のスピーチを録画・録音し自分のスピーチをチェックすることで技能向上を図る。提出箱に提出させることで授業後に評価を行うことができるなど、ICTを活用することは授業のねらいの達成と適切な評価に有効であることが分かった。 ○「教科の特質」についての情報交換 ・教科によって、課題を設定するのが生徒であるか教師であるかの違いや課題の設定方法に違いがあることが分かり、教科の特質を生かした課題設定の工夫の必要性が明らかになった。
5.17	メ1	○生徒が主体的に学級の係活動に取り組めるようにするためのルール作りについて
5.29	全3 生徒用タブレット研修	○ICT活用実践例の紹介 ・教育DX推進リーダー、DXアシスタントから他校の実践例を紹介してもらった。シンキングツールを活用することで活発な意見交流ができることが分かった。
6.5	全4 教科部会研修 教	○NRT標準学力検査の分析 ・テスト結果について考察を深め、生徒の実態把握ができた。
7.3	全5 教科の特質を生かした学習課題の設定	○教科の特質を生かした学習課題の工夫について説明 ①生徒が主体的に取り組む課題解決学習②学んだ知識を生かした活用・探究を見通した学習課題の設定③知識・技能と社会や生活の結び付きを見通した学習課題の設定、と①～③の具体例の説明を行ったことで、学習課題の設定方法について理解が深まった。
7.6	メ2	○道徳の授業におけるねらいにせまれるような発問の作り方について
8.18	全6 教科の特質を生かした学習課題の工夫 理科:原教諭 保健体育:真庭教諭	○学習課題の工夫について実践例の紹介 ・化学反応を化学反応式で表す課題を設定した。化学反応式を教師が説明したり、生徒が考察したりする際に、ICT機器を活用し原子や分子のモデルを操作することで理解を深めることができた。 ・体育の長距離走において体力に応じて運動強度を決めさせる課題を設定した。平常時と運動時の脈拍を測定し、心拍数の強度で周回タイムを設定したことで主体的に取り組むことができた。
8.28	メ3	○学習規律(クロームブックの取り扱いやその他の規律)を徹底させるための方策について
9.14	授 一人一授業 栗原教諭 1-1 数学	○単元初めの学習課題として、ペットボトルキャップの個数を考えさせたことは、生徒の主体的な学習に有効であったか。 ・教科書に掲載されている学習課題をそのまま使用するのではなく、生徒の興味関心や実態に応じて学習課題を設定したことは効果的であった。また、ペットボトルキャップを発展途上国へのワクチンに変えることができるという取り組みにも触れることで、道徳とも関連付けて行える数学の授業であった。
9.14	推2 指 指導案検討①	○がん教育の指導案検討 ・本時展開について内容を精選し、指導方法について話し合った。
10.2	全7 教科の特質を生かした学習課題の工夫 英語:阿部教諭、山本教諭 技術:下飯教諭	○学習課題の工夫について実践例の紹介 ・英語では、スピーチを録画させ、より分かりやすく相手に伝える表現方法について考えさせる課題を設定した。発音の仕方だけでなく、アイコンタクトや声量や間の取り方、ジェスチャーなどにも考慮しスピーチを工夫することができた。 ・技術では、社会面、経済面、環境面、安定供給面の側面から発電電源構成を決定する学習課題を設定した。電源構成の決定のために、専門家からの講話を聞いたり、新聞や書籍から長所や短所を調べたりした。その結果、多面的に考え電源構成を決定することができた。
10.16	全8 教科の特質を生かした学習課題の工夫 社会:武藤教諭、後藤教諭 家庭科:中島教諭	○学習課題の工夫について実践例の紹介 ・社会では、単元を貫く課題を生徒に考えさせた。一人一人が課題を考え、共通する課題をクラスの課題として設定することができた。 ・家庭科では、水害などの災害時の避難方法について考える課題を設定した。生徒のプライバシーを考慮し、班ごとに模擬家族を設定した。家族構成に合った、適切な避難方法、避難のタイミング、避難経路などを考えることができた。
10.30	メ4	○生活記録ノートを活用した積極的な生徒指導のあり方について
11.13	全9 教科の特質を生かした学習課題の工夫	○学習課題の工夫について実践例の紹介 ・国語では、ICTを活用し古典『枕草子』を音読させ録音し提出

	国語:新井教諭 大河原教諭 音楽:竹内教諭	させたことで、生徒は主体的に取り組み、有効であった。 ・音読の指導では、音読させるために3段階の難易度に分かれた3種のカードを用意し、生徒の能力に応じてカードを選び音読させたことが有効であった。 ・音楽では、鑑賞の授業でイヤホンスプリッターを活用し、何度でも聴き直したい部分をじっくり聴くことができた。合唱のパートごとに録音しチェックするなどICT活用が効果的であった。
11.30	授 一人一授業 後藤教諭 1-2 社会	○ICTを効果的に活用した資料提示は、EUが抱える課題について知り、話し合いを通して、解決に向けての取り組みを考える活動を行う上で有効であったか。 ・単元を貫く課題と、各授業の学習課題が一覧できる振り返りシートを活用し、生徒が単元の流れや単元としてのまとまりを意識して授業に取り組むことができた。
12.1	メ5	○教職員の人権意識チェック及びLGBTQの生徒対応
12.11	全10 教科の特質を生かした 学習課題の工夫 数学:大澤教諭、栗原教諭 美術:正田教諭	○学習課題の工夫について実践例の紹介 ・答えを導く過程に多様な課題を設定し、ICTも活用しながら、ペア、グループや全体の中で、比較・検討・説明させたことが有効であった。
12.12	授 一人一授業 真庭教諭 2-1 保健体育	○自分に合ったポジションを選ぶという学習のゴールを設定したことは、生徒の主体的な学習に有効であったか。 ・学習のゴールを「3つの中から自分で選択する」としたことで、どのポジションが自分に適しているか、技能のポイントを考慮しながら学習に取り組むことができた。
12.13	授 一人一授業 竹内教諭 2-2 音楽	○あらすじを確認し登場人物の心情を想像してから曲を聴取したことは、生徒の主体的な学習に有効であったか。 ・意見交流の度にグループを組み替えることで、より多くの人と意見交流する環境をつくることができた。 ・あらすじを確認し登場人物の心情を考えることで、聴き取ったことと感じ取ったことの結びつけがしやすくなった。
12.14	授 一人一授業 藤倉教諭 2-2 理科	○既習事項を用いて翌日の天気を予想したことは、生徒の主体的な学習に有効であったか。 ・生活に密着した内容で、話し合い活動が絶対必要な学習であり、生徒同士で分担して活動することができた。 ・今現在の天気図を用いることで楽しみながら学習に取り組むことができた。
12.22	授 一人一授業 下飯教諭 2-2 技術	○持続可能な社会の構築のための発電電源構成について考えることは、生徒の主体的な学習に有効であったか。 ・エネルギーミックスについてICTを利用し視覚的に示すことで説明する時間の短縮や充実を図り、話し合いの時間を確保することで、意見交流が活発に行われた。
1.11	推3 今年度の成果と課題、 次年度に向けて	○アンケート結果より今年度の校内研修を振り返り、次年度に向けた課題や解決に向けた手法を考える。 ・本年度の校内研修についてアンケートを行い、次年度に向けて研修内容について検討した。
1.16	授 一人一授業 新井教諭 3-2 国語	○詩の意味を理解する上で歴史的背景や作者について踏まえ、連ごとの「われの心情」をグループで話し合ったことは、生徒の主体的な学習に有効であったか。 ・事前のアンケートを活用することで、主体的に学ぼうとする意欲が引き出した。 ・歴史的背景や作者について踏まえたことで、今と昔の違いを理解できた。
1.22	全11 校内研修のまとめ	○今年度の反省と来年度の研修主題 ・一人一授業等で見られた成果と課題を共通理解し、今後の方向性が明確になった。

〈 職 員 一 覧 〉

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校長	松井 秀幸	教諭	後藤 遼太
教頭	大塚 純子	教諭	小吉 野弘
教諭	中山 島保	教諭	新井 久仁美
教諭	山本 陽子	教諭	正原 由美佳
教諭	大河 哲也	教諭	小原 薫子
教諭	大河 幹夫	養護教諭	小野 茂子
教諭	原大 新誠	主幹事務長代理	小吉 野恵子
教諭	原大 澤光	学校教育支援員	小吉 海理と
教諭	武下 藤誠	学校事務補助員	後藤 裕美子
教諭	真庭 飯庭	スクールカウンセラー	茂木 恵理子
教諭	藤倉 倉内	スクールソーシャルワーカー	板坂 真理子
教諭	竹内 香那	用務員	松井 正俊

白 沢 中 学 校

所在地 〒378-0121 沼田市白沢町高平75-1
電話番号 0278-53-2009 FAX 53-3984
校長名 三俣 利明

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) **学校教育目標**〔教育目標〕自ら正しく判断する力を養い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を期する。

(2) 目指す具体像

〔目指す生徒像〕○自主：正しく行動できる生徒 ○勤勉：ねばり強く学ぶ生徒

○奉仕：人のためにつくす生徒 ○友愛：温かな心をもった生徒○健康：心身ともに鍛える生徒

〔目指す学校像〕○全ての人にとって学びがあり、育ち合える「みんなの学校」

- ・学び合う楽しい学校【生徒】
- ・働きがいのある学校【教職員】
- ・安心して通わせたい学校【保護者】
- ・応援したい学校【地域・関係機関】

〔目指す教職員像〕

- 得意なことを生かし、学び続ける教職員【専門性】
- いつでも生徒や保護者の声を聴き、心に寄り添う教職員【人間性】
- 笑顔と明るい声で受け入れ合う教職員【社会性】

2 経営方針

全ての人にとって学びがあり、育ち合える「みんなの学校」

- (1) 生徒が心身ともに健康で安心・安全な学校生活を送れるよう、新型コロナウイルス感染症対策を継続するとともに、自然災害や事故等から主体的に命を守る取組を推進し、学校の安全管理・危機管理に努める。
- (2) 1人1台端末などのICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業改善に取り組む。
- (3) 生徒や家庭・地域の思いや願いを聴き、生徒一人一人の可能性を見出しながら家庭と学校をつなぐ学びと希望進路の実現に向け、生徒一人一人の学び方に沿った学習習慣の確立と学力保証に努める。
- (4) 全ての教職員が目標をもって主体的に学び続け、専門職としての資質・能力の向上を図る。
- (5) 多面的・総合的な生徒理解に努め、道徳教育を中心とした心の教育を基盤とした積極的な生徒指導を展開する中で、生徒の規範意識の高揚や自己肯定感・自己有用感の醸成に努める。
- (6) 生徒の健やかな成長を願い、生徒一人一人へきめ細かな指導・支援を推進するため、組織運営の工夫・改善に努めるとともに、家庭や地域と連携してふるさと白沢を愛する心の育成に努める。
- (7) 教育に携わる公務員としての自覚と使命感により、服務規律の確保を徹底することで信頼を高めるとともに、働き方改革の推進や労働安全衛生環境の改善に努め、同僚性豊かで、働きがいのある職場環境づくりを推進する。

3 本年度の重点施策

- (1) 生徒の安心・安全の確保を最優先する。
- (2) 生徒の学ぶ意欲を高め、学力向上につなげる。
- (3) 生徒の可能性を見出し、よさを伸ばして自己肯定感と自己有用感を高める。
- (4) 心の教育を基盤とした積極的な生徒指導を推進する。
- (5) 生徒の個性を尊重しつつ人間性・社会性を高め、視野を広げ、希望進路の実現に寄与する。
- (6) 教職員一人一人が主体的に学び続け、専門職としての資質向上に努める。
- (7) 「ONE TEAM」としての組織マネジメントを推進する。
- (8) 家庭や地域と連携し、白沢を愛し、ふるさとに貢献する人を育成する。
- (9) 安全・安心を確保するための危機管理意識、危機管理の徹底を図る。
- (10) 服務規律の確保と働き方改革に努め、働きがいのある職場づくりを進める。
- (11) 特別支援教育の充実を図る。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 学びに向かう姿勢を大切に、考えを深め合う生徒の育成
副主題 ～一人一人の学びを最大限に引き出す学習課題の設定を通して～

生徒の実態との関わり

- ・学ぶことに対して見通しをもち、粘り強く取り組む姿が見られるようになってきているが、課題を選択する際にできないことや難しいものよりも、分かりやすいもの、簡単なものに流されがち傾向が見られる。
- ・授業や日常生活で身に付けた知識・技能をもっているが、それらを活用して新たな課題を考えたり、自己の学びを客観的に振り返ったりすることが不十分である。
- ・自ら課題を見つけて課題を明らかにしたり、学習内容を身に付けようとしたりすることが不十分である。

指導の在り方との関わり

- ・生徒が学習の見通しをもって取り組めるようにさせる必要がある。
- ・学習の中で自分なりに目標を定めたり、解決方法を考えたりして、問題解決に至ることができるようにするための学習課題の設定が必要である。
- ・意見交流の際に、まとめたものを発表するだけで終わってしまい、要約して発表をしたり、発表のさせ方を工夫して交流させたりするまでには至らなかった。
- ・「深い学びができた姿」をどのように見取るのか検討していく必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

課題に対して見通しをもって粘り強く取り組むとともに、他者と協働しながらよりよい考えや新たな考えを生み出すことができる生徒。

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・導入の場面で学習の見通しをもたせて、学習課題を解決させるための方法を予想させる。
- ・単元のまとまりを意識し、単元終了時の生徒の姿をイメージして指導する。
- ・生徒が必要感を感じる課題を設定したり、振り返りの視点を各教科で提示したりする。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・単元を貫く課題やめあてをはっきりさせたり、生徒が必要感の感じる課題を設定したりしたことで、見通しをもって学習に取り組ませることができた。
- ・課題設定を工夫したことで、多様な考えを引き出すことができた。
- ・3年計画でICT機器の活用について研修を行ったことで、活用技能を高めさせるとともに、教師側も目的に応じた使い方をさせることができるようになってきたことで、生徒の考えを膨らませることができた。
- ・「研修のボタン」を繋いだことで、課題に対して同一歩調で研修を進めることができた。

○課題

- ・生徒の考えや表現の引き出し方を工夫する。
- ・各教科において、「見方・考え方」をはたらかせる視点を明確にする。
- ・交流や振り返りの時間の確保や使い方の見直しをする。
- ・聴覚障害の生徒への支援の方法を考える。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・「見方・考え方」を働かせることができるようにさせる。
- ・振り返りのさせ方を検討していく。
- ・話し合い活動のさせ方について検討していく。
- ・個別最適な学びを達成させるための手立てを考える。

3 研修計画・経過報告

指は、指導案検討 授は、研究授業・授業研究会

月日	内 容	○研修の視点 ・明らかになったこと
4.17	【校内研修推進委員会】 ・研修の概要の検討	○校内研修の概要と見通しについて検討する。 ・研修テーマについて共通理解を図り、今年度の研修の方向性を確認し、今年度の校内研修の見通しをもつことができた。
4.24	【第1回校内研修（全体会）】 ・研修の概要（主題・副主題） ・指導主事訪問Aに向けて ・学習指導案の形式について	○校内研修の概要と見通しについて検討する。 ・A訪問に向けての日程、学習指導案の書式、目指す生徒像について共通理解を図ることができた。
5.1	【第2回校内研修（全体会）】 ・計画立案 ・一人一授業実践、目指す生徒像について ・研究事項の検討 ・難聴の種類と特徴について	○主題設定の理由、ねらい、内容、方法、計画を確認する。 ・主題設定について共通理解を図ることができた。 ・難聴の種類と特徴について理解できた。
5.29	【第3回校内研修（全体会）】 ・NRT学力テストの分析 ・一人一授業実践の計画	○研修内容の再確認をする。 ・一人一授業の年間計画が立てられた。 ・NRTの分析方法について共通理解ができた。
6.12	指導主事訪問A	○校内研修の方向性を確認して指導をもらうとともに、個々の目標を明確にする。 ・授業実践を行い、指導主事からの指導助言を踏まえ、個々の目標を明確化した。
7.10	【第4回校内研修（全体会）】 授A 櫻井教諭（Aグループ） 3年社会「現代社会の見方や考え方」 授B 萩原教諭（Bグループ） 2年数学「1次関数」 ・指導主事訪問Aを受けての反省 ・聾学校授業サポートの報告	○現代社会の決まりについて、社会の様々な決まりをロイロノートの共有ノートを使って分類させたことは、現代社会の課題を解決する意欲をもたせるのに有効であったか。（社会） ・単元の見通しをもたせたことで、単元の課題を明らかにしようとする意欲をもたせることができた。 ・単元を通して身に付けさせたいことを生徒と共有することで、学習への見通しをもたせることができた。 ○1次関数の導入において、標高と気温のデータを使って既習の関数と比較し考えさせることは、生徒が見通しをもって課題解決に向かう意識をもたせるのに有効であったか。（数学） ・生徒の実態把握を確実に行うことが、適切な学習課題の設定につながる。
8.28	【第2回校内研修推進委員会】 指導主事訪問Bに関わる検討	○B訪問に向けての方向性を確認する。 ・授業のおおまかな内容やB訪問に向けての日程を調整できた。
9.25	【第5回校内研修（全体会）】 授C 齋藤教諭（Bグループ） 1年理科「水溶液」 指 指導主事訪問Bに関わる指導案検討①	○物質が水に溶ける様子を、粒子モデルを用いて考えさせたことは、生徒が見通しをもって課題解決に取り組ませるのに有効だったか。（理科） ・モデル文を活用したことで、生徒が論理的に発表することができた。 ・生徒の実態を基に見通しをもたせることが大切である。 ○B訪問に向けて共通理解を図る。 ・内容の修正を図ることができた。
9.27	・学校侵入者対応訓練	・場面演習やさすまた訓練を通して、危機管理の知識を得ることができた。
10.23	【第6回校内研修（全体会）】 授D 今山教諭（Aグループ） 3年国語「おくのほそ道」	○シンキングツールを活用して学習したことは、作者のものの見方や考え方を捉えるのに有効であったか。（国語） ・シンキングツールの活用は、視覚的にも分かりやす

	<p>授 E 片野教諭 (B グループ) 1 年家庭科「生活を豊かにするもの生活」</p> <p>指 指導主事訪問 B に関わる指導案検討②</p>	<p>くなり、自分の考えをまとめるのに効果的である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの子ども取り組みやすい学習課題を設定することが大切である。 ○チャートを使って制作するものを考えたことは、生活の見方・考え方の視点から布を用いた制作計画を立てるのに有効であったか。(家庭科) ・具体物を提示したことで、活動が円滑に進んだ。チャートの活用の工夫が必要であった。 ・授業の中で、生徒に学習課題を常に意識させることが大切である。 ○B 訪問に向けての共通理解を図る。 ・前回の指導案検討を基に、本時の展開を中心に修正を図ることができた。
11.20	<p>【第 7 回校内研修 (全体会)】</p> <p>授 F 清水教諭 (B グループ) 2 年体育「バスケットボール」</p> <p>指 指導主事訪問 B に関わる模擬授業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT を活用し、試合の様子を撮影して自分や仲間の動きを客観視したことは、シュートに繋げるための動きを考えることや、作戦を立てるための話し合いを行うことに有効であったか。(体育) ・映像を振り返ることで、自分や仲間の動きを客観視させることができた。 ・話し合う際に、特定の子の考えだけでなく、個人の考えをグループ全体に共有させることが大切である。 ・模擬授業を通して ICT 機器の活用場面や方法、板書計画、授業の流れの改善点を明らかにすることができた。
12.1	<p>授 指導主事訪問 B 石井教諭 2 年英語「Live Life in True Harmony」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○クイズを出し合う活動を通して曲の情報や自分の考えを整理したことは、ALT が聴いてみたいと思うようなスピーチをする準備として有効であったか。 ・生徒が関心をもつ学習課題を設定したことで、意欲的に活動する姿が見られた。 ・生徒が話す姿をモデルにして、話し方を生徒に考えさせるとよい。
12.11	<p>【第 8 回校内研修 (全体会)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難聴生徒への対応について 	<ul style="list-style-type: none"> ・聾学校の先生に研修を依頼して、難聴生徒への対応について職員間で共通理解を図ることができた。
1.15	<p>【第 9 回校内研修 (全体会)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事訪問 B を受けての反省 ・改善点の確認 ・本年度の成果と課題 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業実践を振り返り、成果と課題をまとめる。 ・自分自身の取組や研修の成果と課題を振り返り、今年度の研修の成果と課題を確認し、今後の研修の在り方について確認することができた。
2.19	<p>【第 10 回校内研修 (全体会)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度のテーマの方向性の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の成果と課題を踏まえ、次年度の研修の研修主題、内容について検討する。

〈 職員一覧 〉

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校長	三 俣 利 明	教 諭	鈴 木 雅 之
教 頭	小 曾 根 一 広	教 諭	片 野 由 紀 子
教 諭	萩 原 正 人	養 護 教 諭	小 渕 里 江
教 諭	石 井 華 恵	事 務 主 事	佐 藤 佑 香
教 諭	南 雲 優 人	用 務 員	長 谷 川 晃
教 諭	齋 藤 広 大	支 援	中 澤 かな子
教 諭	櫻 井 慎 吾	初 任 研 後 補 充	高 橋 葵 (1 学期)
教 諭	今 山 志 乃	初 任 研 後 補 充	有 谷 恵 美 (2,3 学期)
教 諭	清 水 健 一 朗	心 の 教 室 相 談 員	大 竹 士 郎
教 諭	林 徹 志	部 活 動 指 導 員	梅 澤 周 平

利根中学校

所在地 〒378-0303 沼田市利根町追貝334番地
電話番号 0278-56-2044 FAX 56-4209
校長名 田村 学

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) 学校教育目標

〔基本目標〕 高い知性と豊かな心を持ち、心身ともに健康で、強く逞しく生きる生徒を育成する。

- 〔具体目標〕
- 向学（知）：進んで学ぶ生徒
 - 克己（体）：心身を鍛える生徒
 - 優雅（徳）：思いやりのある言動をとる生徒

(2) 経営目標

- 〔目指す学校像〕
- 利根町の歴史と風土に根ざした落ち着きと潤いのある学校
 - 生徒や教職員一人一人にとって満足感と有用感のある学校
 - 家庭との信頼関係を築き、地域とともにある学校
- 〔目指す教師像〕
- 経営目標を共有し、互いに支えながら高め合える教師
 - 生徒への深い愛情を持ち、よさや可能性を伸ばせる教師
 - 教職員として自覚と誇りをもち、保護者や地域から愛される教師

2 経営方針

- (1) 教職員による主体的・組織的に参画する態勢の充実 **【創造・協働・意思疎通】**
- (2) 「進んで学ぶ生徒」を育むための授業を核とした学習指導の工夫・改善
- (3) 「心身を鍛える生徒」を育むための保健体育・部活動の充実と保健教育の推進
- (4) 「思いやりのある言動をとる生徒」を育むための人権教育と道徳教育の推進
- (5) 安全で安心な学びの場づくりと防災・危機対応能力を育むための安全教育の推進
- (6) 地域に根ざした特色ある教育活動（小中連携・中高一貫教育、キャリア教育、へき地教育等）の推進

3 本年度の重点施策

- (1) 教職員による主体的・組織的に参画する態勢の充実に向けて
 - ・職種に応じた専門職としての自覚と誇りをもちた職務の遂行
 - ・キャリア段階に応じた資質・能力の向上と、学校経営への参画意識の高揚
 - ・学校評価を踏まえた分掌業務の実施と改善点を生かした計画的・協働的な取組の充実
- (2) 「進んで学ぶ生徒」の育成に向けて
 - ・学力向上委員会を中核とした学力向上を図るための対策や取組の充実
 - ・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力と人間性」の3つの資質・能力を育てる、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善の推進
 - ・振り返りによる学習内容の確実な定着**【振り返り学習】**
 - ・自ら学ぶ意欲を高め、学び方を身に付けさせるための家庭学習の指導の工夫
- (3) 「心身を鍛える生徒」の育成に向けて
 - ・運動の楽しさを味わわせるとともにがんばりぬく強い心を育て、体力向上を図る保健体育の授業の工夫・改善
 - ・生徒の主体性を重視し、取り組む姿勢や成長を評価する部活動の推進 **【教育部活】**
 - ・生活ノートを通じた生活習慣指導、全校一斉給食を活用した食育指導、学校保健委員会等による健康な生活への意識の高揚と実践力の育成
- (4) 「思いやりのある言動をとる生徒」の育成に向けて
 - ・道徳教育推進教師を中心とした「特別な教科道徳」の授業の充実
 - ・多面的な生徒理解と積極的な生徒指導による「自己肯定感」や「自己有用感」の育成
 - ・生徒の主体性を生かす生徒会活動と生徒会と連動した学級活動による自治的精神の育成
 - ・読書活動（朝読書・家庭での読書）の推進による豊かな感受性と想像力の育成

【家庭での読書活動推進】
- (5) 安全で安心な学習環境の整備と危機管理意識の育成に向けて
 - ・施設、設備の定期点検への対応と、様々な状況を想定した危機管理体制の充実 **【セイフティ沼田】**
 - ・消防署と連携した避難訓練や心肺蘇生法講習、アレルギー事故の未然防止、危機管理マニュアルの実効性を高める訓練や研修等による危険予測・回避能力の育成
- (6) 地域に根ざした特色ある教育活動の推進に向けて
 - ・学校評価等による保護者や地域の意識の把握、各種たより等による積極的な情報発信
 - ・地域の人材・特色を生かした、総合的な学習の時間や特別活動の実施 **【沼田大好き！ふるさと学習】**
 - ・学校運営協議会（コミュニティスクール）の推進 **【地域学校協働活動の充実】**

基本姿勢 3C 創造 (Creation) 協働 (Collaboration) 意思疎通 (Communication)

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

自ら学び、共に学び合う生徒の育成

～意見交流を通して、自らの考えを広げ深める生徒を目指して～

生徒の実態との関わり

- ・真面目に課題に取り組む生徒が多いが、基礎的な学習内容の定着に差が見られる。また、自分の意見をまとめ、発表することが難しい生徒もいる。
- ・意見交流の場で考えの共有はできるが、お互いに考えを広げたり、深めたりするまでには至っていない。

指導の在り方との関わり

- ・基礎的な学習内容を定着させるために、既習事項を生かした単元を構想する必要がある。
- ・生徒が意見交流や学び合いを行う際に、目的や具体的な方法を示す必要がある。
- ・ねらいに迫るための学習活動を精選することで生徒一人一人が学びの充実感を得られるようにする必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

自らの見方・考え方を整理し、他者との意見交流を通して自分の考えを広げ、深めることのできる生徒

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

○右のピクトグラムを活用し、以下の手立てを行った

①めあて(生徒が目指す姿)を教員と生徒が共有する。

①



②



③



②意見交流の場面で、話し合う観点の提示を行う。

③話し合い後に自分の考えをもう一度整理する時間を設け、自分の学びの変容を実感させる。

3 研修計画 (裏面)

4 研修の成果と課題

○成果

- ・生徒が学びの変容を実感したことで、次時にも見通しをもって意欲的に取り組む姿が見られた。
- ・学び合いを通して、相手の意見に触れることで自分と比較し、よりよい意見や考えを目指そうと高め合う姿が見られた。
- ・集会や講演会等の場面においても、自分の考えや意見を堂々と述べる生徒が増えた。

○課題と課題解決に向けての今後の取組

- ・意見交流を通して、自分と相手の共通点や相違点を見つけることができるようになった。さらに、生徒の考えを広げ深めるために、相手に根拠を求めたり、納得させたりするなどのやり取りができるような手立てが必要である。

3 研修計画・経過報告

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 ・明らかになったこと]
4.17	校内研修主題の提案・検討	○本年度の校内研修の方向性についての確認を行う。 ・前年度の成果と課題を共有し、本年度の研修テーマの共通理解を図った。
5月～ 2月	授 授業参観ウィーク (毎月第3週に実施)	○自分の教科にいかす視点をもって、互いに授業を見合う。
5.22	一人一授業の計画 NRT の結果を踏まえた生徒の実態分析	○生徒の実態を分析し、研修主題に迫るための手立てを共有する。 ・本校の生徒は、「基礎的な内容の定着」「自分の意見に自信をもつ」ことの2点に課題があり、対応方法を共有した。
6.13	指導主事訪問 A 授業実践、授業研究会	・発問や意見交流の目的を明確にする。 ・意見を言いたいと思える場面を設定する。 ・タイムマネジメントを意識し、振り返りを通して生徒が変容を実感できるようにする。
6.26	ピクトグラムについて	・ピクトグラムの活用方法を全体で確認した。
7.3	授 一人一授業、授業実践① 授業研究会 (3年社会 佐鳥教諭)	○高度経済成長期の日本社会に対する評価を行い、意見交流を行ったことはめあてに迫るために適切であったか。 ・めあてを明確に提示することでねらいを意識して生徒も意見交流に取り組むことができるのではないか。 ・意見交流の場を工夫することで自分と異なる意見を聞き、自分の考えを深めることにつながるのではないか。
9.12	指 指導主事訪問 B 指導案検討会 I	○「自分の考えをもち、意見交流を行うことでさらに自分の考えを広げ深める」授業となっているか。 ・自分事として捉えさせるための発問等が必要ではないか。 ・生徒の発言に対する教員の切り返しを準備しておくことで生徒が個々の考えを深めることにつながるのではないか。
9.28	指 指導主事訪問 B 指導案検討会 II	○前回の検討会を踏まえての修正点を共有する。 ・指導上の留意点に工夫が加えられ、授業の流れがより明確になった。
10.6	授 指導主事訪問 B 授業実践② (2年道徳 畔上教諭) 授業研究会	○生徒の意見を広げ、深めるための発問や問い返しは適切であったか。 ・生徒の実態を踏まえた問い返しや留意点の準備があったので、一人一人が自分の意見をもつことができた。 ・タイムマネジメントを意識して意見交流を含めた授業を実施していく必要がある。
10.23	授 一人一授業、授業実践③ 授業研究会 (1年体育 井上教諭)	○ICT を活用して、自分たちの動きを確認して作戦を立てることは、課題を見つけ、改善策を考えるために有効であったか。 ・撮影した動画をもとに話し合いをすることで、課題を見つけ、改善策を考えるために有効な手段となった。 ・教員が意見交流のファシリテーターとなることで生徒の意見や考えを引き出すことができた。

11.13	授 一人一授業、授業実践④ 授業研究会 (2年国語 牛口教諭)	○古文を読み、筆者と自分の考えを比較して考えることは、自分の考えを広げ深めるために有効であったか。 ・生徒の個々の意見を深めるために、意見交流の目的や方法を事前に提示する必要がある。
12.18	授 一人一授業、授業実践⑤ 授業研究会 (3年英語 横坂教諭)	○提案文を改善するために、ペアでアドバイスしあうことは有効であったか。 ・ねらいに迫るための学習活動の精選を行い、タイムマネジメントを意識して授業を行う必要がある。
12.18	研修のまとめ①	・これまでの授業を振り返り、成果や課題を見つけた。
1.15	成果と課題の共有 研修のまとめ②	○授業実践を通しての成果と課題をまとめる。 ・研修主題に基づいて振り返りを行った。
2.26	次年度研修の方向性の検討	○今年度の取組を踏まえた次年度の研修の方向性を検討する。

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
4.18	ICT 端末の活用を図るための研修	研修主任	・ロイロノートの活用方法を確認した。
6.5	特別支援教育に関わる講話	県立沼田特別支援学校専門アドバイザー 伊藤 容子氏	・発達障害の種類と特徴、知的と情緒の違い保護者との関わり方について学んだ。
7.10	服務規律の確保	沼田市教育委員会 管理主事 角田 厚氏	・生徒に対する不適切な行為について、具体的事例をもとに防止策を話し合った。
9.20	特別支援教育に関する情報交換	県立沼田特別支援学校専門アドバイザー 伊藤 容子氏	・生徒の実態を把握し、授業中や学校生活で行うべき支援について共通理解を図った。
12.7	特別支援教育に関する情報交換	県立沼田特別支援学校専門アドバイザー 伊藤 容子氏 富所 里美氏	・生徒の様子を参観していただき、個々に合った支援の方法について共通理解を図った。
10.23 11.13 1.15	服務規律の確保	各学年担当	・事例を取り上げての職員研修 「交通事故の防止、交通法規の遵守」 「個人情報の適切な管理・情報セキュリティの徹底」 「SNS等への書き込みによる信用失墜行為」

〈職員一覧〉

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	田村 学	教諭	牛口 珠里	教諭(他校兼務)	亀山 秀治
教頭	小林 直也	〃	堀江 則子	非常勤講師	高橋 美穂
教諭	井上 幸大	〃	古田 島茂	〃	萩原 裕子
〃	佐鳥 悠平	養護教諭	武井 美枝	初任研後補充	高橋 千賀子
〃	畔上 峻也	事務主事	保坂 洋介	S C	濱野 雅樹
〃	横坂 真優	栄養士	北脇 千寛	主任用務員	中澤 玲子

多 那 中 学 校

所在地 〒378-0317 沼田市利根町多那732
電話番号 0278-53-2698 FAX 53-3199
校長名 宮田 好子

I 学校の経営

1 学校の教育目標

- (1) 基本目標 ◎多那を愛し、未来をきりひらく子
(2) 具体目標【目指す生徒像】
○学び続ける生徒（知） ○思いやりのある生徒（徳） ○たくましい生徒（体）

2 経営方針

(1) 経営目標

小・中全教職員の経営参画（チームたな）による組織の活性化を図る

(2) 目指す学校像

ともに学び、考え、助け合い、高め合う多那校（チームたな）

(3) 目指す教師像

小・中学校の枠を超え、感謝、使命感と奉仕の心を持ち、互いに支え、高め認め合える人間性豊かな教師

3 本年度の重点施策

(1) 確かな学力の育成 【 】は沼田市独自施策との関係

- ・小中の学びの連続性を意識した学習指導を実施。
- ・教員の専門性や特性をいかし、小中相互乗り入れ型による教科担当制を促進し、きめ細かな指導と中学校の学びに繋がる系統的な指導の充実を図る。
- ・地域の人材や地域素材を活用した体験的学習の充実を図り、実感のある学びを促進する。
- ・めあての提示、まとめ、振り返りの学習過程や定期的な放課後学習によって、基礎・基本の確実な定着を図る。 【振り返り学習のすすめ】
- ・単元構想の工夫を通して、自分の考えを伝えたり、広げ深めたりできる力を育成する。
- ・ICTを効果的に活用し、協働的な学び、個別最適な学びの充実を図る。
- ・家庭と連携し、家庭学習の習慣を定着させる。
- ・校内研修の充実（小中完全融合型の組織活動）により指導力を向上させ児童生徒の学力向上を図る。 【沼田市・先生の日】
- ・特別支援教育の充実（一人一人の実態やニーズ・困り感に寄り添った指導・支援、そのための職員研修）を図る。

(2) 豊かな心の育成

- ・凡事徹底による生徒指導。当たり前のことが当たり前に見える。（明るく元気な挨拶と返事・適切な言葉遣い・服装）
- ・和顔愛語（和やかな顔と思いやりの言葉で人に接する）を心がけ、温かな人間関係作りを心がける。
- ・考え議論する道徳での命の大切さを繰り返し指導する。 【児童生徒の命を守り、育てる教育】
- ・全ての教育活動における自己肯定感・自己有用感を育てる意図的指導を行う。（良さや努力を褒め認める）
- ・人権教育・特別支援教育を充実させ、児童生徒の心のバリアフリーを育成する。
- ・家庭と連携した読書活動の推進を図る。 【家族で本を読みましょう】
- ・4つの視点（自己存在感の感受、共感的な人間理解の育成、自己決定の場の提供、安心・安全な風土の醸成）を踏まえ、自己指導能力を育てる。

(3) 健康の保持増進と安全の確保

- ・児童生徒の健康と安全を第一に考え、必要に応じた感染症予防対策を講じる。
- ・小中連携による9年間の連続性を踏まえた体力向上プランの確実な実施を図る。
- ・緊急時避難訓練等の実施を通し、職員と児童生徒の危機管理意識を高める。 【セイフティ沼田】

(4) 家庭・地域との連携・協働

- ・こどもは宝、地域で育てる地域の学校の実現に向け、学校運営協議会の促進を図る。 【沼田(多那)大好き！ふるさと学習】

(5) 組織マネジメントの充実と職能の向上

- ・報告・連絡・相談（報連相）を徹底し（+記録）、全職員参画のPDCAによる学校課題の解決を図る。
- ・会議の精選及び効率的な会議運営を目指す。
- ・教育公務員としての自覚を持ち、服務規律の確保に努める。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～ 研修主題 ～

「自ら学び、考えを広げ深め合える児童生徒の育成」
—対話活動を重視した単元構想の工夫を通して—

児童生徒の実態との関わり

- ・自分と異なる他者の考えやよさを理解しようとする姿が見られ、ねらいにそった思考の広がりや深まりが見られるようになった。
- ・協働的な学びの場面で、考えの根拠を説明したり、質問に答えたりすることに課題が見られる児童生徒が多い。また、身に付けた知識や技能を活用し課題を解決することを苦手としている児童生徒が多い。



指導の在り方との関わり

- ・自己の考えを広げ深める対話的な学びを充実させていくために、子供同士の協働、教職員や地域の方との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等の対話活動を効果的に単元構想に設定する必要がある。
- ・児童生徒が見通しをもって自ら学び、身に付けた知識や技能を活用し、課題解決に向かえるよう、単元を見通した課題設定の在り方、対話活動を充実させる手立ての工夫などが必要である。



2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童生徒像

- 【低学年】自分の考えを言葉や図などで説明したり、問いかけたり、答えたりできる。
- 【高学年】根拠を示して考えを説明したり、視点をもって考えを比較したり、より良い考えに気付いたりすることができる。
- 【中学生】学習の見通しをもち、自ら進んで学習に取り組み、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりすることができる。

(2) 具体化した目指す児童生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・伝える活動や多様な他者（子供同士、教職員や地域の方、先哲の考え、他校等）との対話を重視した単元構想の工夫を図る。
- ・知識・技能を身に付ける場面、それを活用し課題解決を図る場面を単元構想の中に効果的に設定する。



3 研修計画・経過報告 次ページ



4 研修の成果と今後の課題

○成果

- ・対話活動を通して、単元を貫く課題を設定したり、学習計画を立てたり、単元構想を共有したりすることで、児童生徒が学習の見通しをもち、めあてを意識して主体的に学習する姿が見られ、自ら学び、考えを広げ深め合える児童生徒の育成が図られた。
- ・他教科と関連させたり、単元に必要感のある課題や適切な難易度の課題を設定したり、対話活動のきっかけとなる学習活動や資料、体験を工夫することで、積極的な対話を促すことができ、思考を深めたり、活用力を向上させたりすることができた。
- ・単元構想を練ることで、教師が学習のつながりや対話活動の目的を意識して計画的に授業を行うことができるようになり、児童生徒の質の高い学びにつながった。

○課題

- ・対話活動で児童生徒の思考を深めるためには、ICTの活用方法や対話の必要性を感じられる課題の設定、思考の根拠になる資料や学習活動、発問などを更に工夫していく必要がある。
- ・小規模校のため少人数の対話や教師と児童生徒との対話が中心となってしまう、多様な他者と対話する機会をもたず、多様な考えを比較検討したり、多様な視点から物事を考えたりする力の育成に課題が残った。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・さらに児童生徒の思考を広げ深めるために、地域の方との交流や異学年交流、他校との交流などの多様な他者と交流する機会を設定したり、ICTの活用や提示資料や発問や課題の設定など、授業における教師の手立てを工夫したりして、質の高い対話活動を行えるように授業改善を推進していく。

1 研修計画及び経過報告 (全:全体会 班:班別協議 校:校種別部会 指:指導案検討)

月 日	研修の内容	経過報告 (○研修の視点・明らかになったこと)
4. 11	全① ・研修内容について ・指導上の工夫について	○本年度の研修主題、副主題について
5. 1	全② ・校内研究授業について 校① ・目指す児童生徒像の検討 班① ・研修グループ計画作り	○B訪問授業者決定 ○目指す児童生徒像の検討 ○1人一授業の計画立案
6. 5	全③ ・授業研究会について 班② ・研究授業指導案検討	○研究会後の報告、成果と課題の記録について ○1人一授業指導案検討
6. 20	授 業 実 践 小5家庭科 大河原教諭	○題材導入時に対話を通して、児童が題材の課題を設定し、学習計画を立てる工夫 ・児童が学習計画を立てることで、学習の見通しがもて、体験活動と対話で思考の深まりが見られた。
6. 21	中3英語 高山教諭	○授業内で対話活動を充実させる手立ての工夫 ・形態を変えて対話することで、身につけた知識や技能を活用して課題を解決する姿が見られた。
6. 26	指導主事訪問A	
6. 29	授 業 実 践 中2社会 宮内教諭	○単元を貫く課題を生徒と一緒に設定する工夫 ・単元を貫く課題を生徒と対話しながら設定することで、毎時間の見通しをもつことができた。
7. 10	小6国語 渡貫教諭	○総合的な学習と関連させ、教科横断的に単元構想を考える工夫 ・他教科とも関連付けながら単元構想を練ることで、目的意識や必要感もてる構成になった。
7. 10	全④ ・A訪問の振り返り ・B訪問の授業について 班③ ・研究授業指導案検討	○A訪問の成果と課題の共通理解 ○B訪問の授業について ○1人一授業指導案検討
7. 19	授 業 実 践 小1, 2 学活 金井教諭、柳澤教諭	○児童の実態を観察することで、必要感のある課題を設定した学活の授業構想の工夫 ・生活に関わる内容を取り上げ、児童にとって説得力のある授業となった。
8. 28	全⑤ ・授業実践の報告① 校② ・B訪問指導案検討指①	○1人一授業の成果と課題の共通理解 ○B訪問指導案の検討
9. 15	授 業 実 践 中3数学 千明教諭	○単元に既習内容を体系的に整理し、活用する学習活動を設定した工夫 ・身に付けた知識や技能の使い分けを考え対話しまとめることで、活用力を向上させることができた。
10. 2	小4国語 星野教諭	○単元構想図を用いることで児童に見通しをもたせる工夫 ・本時の学習の位置づけを認識させ、授業者と児童が単元構想を共有して学習を進めることができた。
10. 2	全⑥ ・B訪問授業研究会について 校③ ・B訪問指導案検討指②	○B訪問授業研究会について ○B訪問指導案の検討
10. 23	全⑦ ・授業実践の報告② 校④ ・B訪問模擬授業	○1人一授業の成果と課題の共通理解 ○B訪問に向けて、重点の確認

11.1	多那小中学校指導主事訪問B			
	小3国語	井上教諭	○言語活動に向けて、つながりを意識した単元構想とワークシートの工夫 ・単元を通したワークシートを活用し、それをもとに対話することで、文章の読み取りを書くことに生かすことができた。	
	中2理科	下田教諭	○生徒同士の対話活動を活発にし、主体的に課題解決へ向かうための手立ての工夫 ・考える視点を絞ったことによって生徒が各々の考えをもつことができ、対話活動が活発に行われた。	
11.6	全⑧ 班④	・B訪問の成果と課題 ・研究授業指導案検討	○B訪問を受けての成果と課題、今後の方向性の共通理解 ○1人1授業指導案検討	
11.29	授業実践	中1国語	佐藤教諭	○単元構想を生徒とともに作成し、目的・目標を意識づけする工夫 ・一時間ごとの授業目標を明確にすることで、主体的に対話活動や学習目標に向かう姿勢ができた。
		小3理科	小林教諭	○単元の課題をつくる場面で児童の気付き等を話し合う活動を取り入れる工夫 ・単元の課題作りに児童の気付きを取り入れたことで、児童の主体的な学習態度を育むことができた。
12.7		中3美術	大岩教諭	○単元構想の再構築を工夫する。 ・自ら構築した知識や感性を以降の学習にいかすことで対話活動の質を高め新しい気付きを促せた。
12.18	全⑨	・授業実践の報告③ ・紀要原稿の作成について	○1人1授業の成果と課題の共通理解	
適宜	紀要原稿の作成			
1.22	全⑩ 班⑤	・実践の振り返りとまとめ ・授業研究会④の報告 ・次年度構想の検討	○本年度の研究の成果と課題 ・実践を振り返り、成果と課題を明確にする。 ○次年度の研究内容について ・成果と課題を基に、次年度の構想を検討する。	
2.26	全⑪	・次年度の校内研修の方向性	○研修主題、副主題(案)作成	

月日	区分	講師	内容
5.17	保健に関する研修	消防署員	・心肺蘇生法講習、アレルギー対応の仕方
毎月	服務規律に関する研修	服務規律担当	・服務規律について
9.4	特別支援教育に関する研修	特別支援教育専門相談員 大谷先生	・小中別ケース会議、それを受けての助言や講話
12.18	Googleフォームの使い方の研修	中情報主任 下田教諭	・アンケートの作成方法、活用方法、テストの作成法等

職名	氏名	職名	氏名
校長	宮田 好子	教諭	大岩 哲夫
教頭	藤井 常夫	教諭	佐藤 尚樹
教諭	山田 哲也	教諭(他校兼務)	野上 沙織
教諭	高山 誠	養護教諭	井上 佳月子
教諭	千明 春香	主幹事務長代理	星野 恵美
教諭	下田 隆広	スクールカウンセラー	廣田 莉奈
教諭	宮内 国大		